







No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																			
						人数	異年齢構成の場合の内訳					学童						その他	死亡 死因	負傷 負傷状況		診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策									
1376	平成29年6月30日	1.認可	6.認可保育所	3.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	25							2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右母指圧挫傷、右母指末節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	ロッカーのすき間に指を挟むことを想定し、人数、片付けの仕方等に配慮する	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	12	危険箇所を職員全員で点検。その都度改善していく	1.集団活動中・見守りあり	年1回は業者に点検を依頼しているが、危険箇所は保育士がその都度チェックし修繕する	1.いっもの様子であった	はさみを製作しており、製作が終了した為、使ったハサミをロープに片付けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	製作を終え、片付けを行う子どもを見守っていた。隣同士、近くで片付けたので、気をつけ言葉かけがなかった	2.担当児の動きを見ていなかった	製作中の子どもを対応していた為、見ていなかった	製作時の見守りが十分でなかった	保育者が活動時の危険性を再認識し、見守りするように配慮する。					
1376	平成29年6月30日	1.認可	6.認可保育所	1.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	36	6	6	8	9	13	6	6	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上A外傷性歯臼脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的な実施	3	2.基準配置	散歩中のマニュアルにある歩行のペースをあわせることに欠けていた。	マニュアルの再確認を行い、歩行のペースをあわせること。	1.定期的な実施	12	1.定期的な実施	12	12	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	保育内容、保育状況には問題はないと思われる。	特になし	1.いっもの様子であった	転ぶときに手をつかず顔を打ったことから、啞唖の動きに弱い傾向があると思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	列の後方を歩いて、走ったのを見て、「あっ、走った」と思った、転んだ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	転んだ瞬間を見なかった	散歩を誘導する職員が子ども達の歩く様子をよく見て、歩くペースを配慮し、さらに間隔があいてしまっただけには走らないように声をかけを徹底するよう促す。	また、本児が啞唖の動きに弱い傾向にあるため、状況に応じて職員と手をつなぐ等の配慮をしていた。	乳児が散歩に行くには人数が多かったと思われる場所にも職員間で把握ができる人数を考慮して散歩に出かけるようにする。
1377	平成29年6月30日	3.その他	13.子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)	5.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)										16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(全治2ヶ月)	1.遊具等から転落・落下	1.あり	3.未実施	事故対応マニュアルは入会説明時に渡したが、内容が十分に伝わってなかった。	事故防止の意識を高めていく為の研修を行う。							3.個人活動中・見守りあり	当該提供会員は施設への送迎を何度か行っているため今回も問題ないと思っていた。	子どもが離れないよう再度伝える。		4.対象児の動きを見なかった	保育サービスの職員へお迎えに来た旨を報告していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	提供会員より、お迎えに来た旨の報告を受けていた。								



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故状況				事故発生時の要因分析																						
						人数	異年齢構成の場合の内訳									発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面		ハード面			環境面		人的面														
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析 事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析 事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析 事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をして いたか	他の職員の動き 具体的に何をして いたか	その他要因・分析 事項	改善策													
1378	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	46						5	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第一基節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアル、研修ともに実施されなかった。	事故予防に関する研修の実施を検討する。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.中庭には滑り台が1つあり、児童が集中してしまっている状況がある。	1.集団活動中・見守り	2.か所以上で児童を遊ばせる場合は、必ず一人は支援員が見守り、中庭のみであった。	1.いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	自由遊びの時間、支援員2名、補助員3名で対応していたが、支援員で遊んでいる児童を担当しておらず、対象児は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	中庭で遊んでいる児童を補助員3名で指導していたが、対象児が遊んでいた滑り台は誰も見えていなかった。	滑り台等の遊具から危険が伴うというため、特に注意して見守りを実施する必要があったが、事故時は見守りを実施しなかった。	遊具の使用には危険が伴うというため、再度確認し、滑り台には常に1名以上見守りを実施する。
1379	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	61						5	1	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首刺創 離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアルを策定し、事故発生時の予防に努める。		2.不定期 に実施	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施	児童クラブ利用対象児童が低学年児童まで拡大されたことを受け、遊具全般の見直しを行う。遊具の点検を定期的に行うほか、年齢・体格ごとの危険箇所を把握し、利用児童に注意を行う。	1.集団活動中・見守り	多くの異年齢児童が一緒に遊ぶ機会が多いため、遊具を学年等で調整し、均等に職員が目が行き届くようにする。	1.いつも通りの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で見ていたもの、主に同遊具を利用する児童に注意していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内において他の児童を見守っていた。	多くの異年齢児童が一緒に過ごす長期休暇中においては、遊具で遊ぶ児童を学年等で調整し、均等に職員が目が行き届くようにする。	
1380	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	41						3	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準配置	指導員4人体制を原則として、保育を行う。		2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	遊具を管理している教育委員会との連絡をこまめに取る。	3.個人活動中・見守り	児童が危険な動きをしている場合は、注意を見守り活動を行う。	1.いつも通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	滑り台近くに他の児童の対応をしていたが、数名が滑り台付近でぶら下がり遊んでいたことに気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童に対応していたため対象児の動きを見ていなかった。	指導員は外遊びの際の危険性を再確認し、見守り活動を怠らないように配慮する。児童全員に対しては、危険な遊び方・他の児童への接し方について話し合いを行い危険性を共有する。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況					事故状況					事故発生の要因分析										掲載更新年月日									
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者				年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面		人的面								
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項					死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位		診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																					
1381	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	16								2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	-	職員会議等で、ひやりはつをを行い、事故が起きたとき、指導員が迅速な行動を取れるよう研修をする。 (様々な想定した指導員の動き、連携の仕方など)	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.-	今後もし引き続き点検する。	3.個人活動中・見守りあり	-	1.いっぽり様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童全員が見渡せる位置で、声をかけながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の指導員は、1人はクラブ室内、1人は休憩中だった。	外遊びをする場合は、必ず2名の職員で見守って、児童の人数が少ないこと、慣れていないグラウンドのため、1名での見守りに対応する。	外遊びをする場合は、必ず2名の職員で見守る。外遊びをする場合は、遊びの内容を制限するなど対応する。
1382	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	36							4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	左肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	本児が2年生となり初めてベース鬼自身で最後まで残った喜びで、やる気とチャレンジしたい気持ちがあり、支援員の状況判断より高かった。	1.定期的 に実施	開館日	1.定期的 に実施	開館日	2.不定期 に実施	ベースに運動マットを使用せず、ラインに変更し壁から離し、ベースの位置とする。	1.集団活動中・見守りあり	終盤で鬼役の児童が来て残り、支援員が鬼役を代行した。	特に、新年生も多く来館する時期なので、夢中になり過ぎないように配慮する。	1.いっぽり様子であった	2.対象児の動きを見ていた	1名が逃げ役として遠くから見ていたが、1名が鬼役として近く見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋を見守っていた。	終盤に鬼役の児童が来て、鬼役を代行した。	支援員1名は、必ず全体的見守りを行っているようにする。
1383	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.2.午前中	2.施設敷地外(園庭・校庭等)	8.学童	44							6	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	入室当初の学童保育室に慣れない児童への配慮を怠った。	指導員全員で事故現場や危険場所の再確認をし、児童への注意を呼びかける。	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	入室した児童の危険場所(下駄箱付近の段差)への配慮が無かった。	見守りを強化し、危険場所の児童に喚起し、事故防止に繋げる。	テラスの段差が20cmほどあり、新年生にとっては高く、指導員の配慮が十分でなかった。	見守りを強化し、ハットについて指導員全員で確認を行なった。	1.いっぽり様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	室内外で見守りしていたものの、テラス付近で指導員が目が行き届いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内外で指導員がバラバラで、児童の事故を未然に防げなかった。	4月から入室した児童への対応が十分で、且つ、テラス付近の危険場所としての認識がなかった。	テラス付近は段差が有る危険場所を指導員が持ち、全学年児童に対し危険場所付近での児童の行動を指導員が注意していく。	
1384	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31							4	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防の話合いは行っていたが、今後は事故予防の研修への参加していく。	1.定期的 に実施	250	1.定期的 に実施	25	2.不定期 に実施	24	遊び箱も2回安全点検をしており問題なかった。	遊び箱も2回安全点検をしており問題なかった。	補助員と一緒に遊んでいた子が遊び箱で遊ぼうとした。補助員は遊び箱の横について見守っていたが、対象児が落下する瞬間に手が離れた。	補助員と一緒に遊んでいた子が遊び箱で遊ぼうとした。補助員は遊び箱の横について見守っていたが、対象児が落下する瞬間に手が離れた。	遊戯室には支援員と補助員の2名がいた。支援員は遊戯室内でままご遊ばせをして見守っていたが、対象児が落下する瞬間に手が離れた。	遊び箱は併用遊具という危険感が強かったため、支援員ではなすがそばで見守った。	遊び箱で遊ぶときは、支援員がそばに付き添うようにする。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																					
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制										発生時状況	事故の転帰	事故原因	要因分析																																
					人数	異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別				特記事項	ソフト面		ハード面			環境面		人的面																								
						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上								学童	その他	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分折・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】		その他要因・分折・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分折・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分折・特記事項	改善策											
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45										5	2	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨幹骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	-	支援員等相互が、状況判断力や児童自身の危険回避能力や防衛力が高まる開き方について事例研究を行うことで、支援力をより高めしていく。	1.定期的 開館日	1.定期的 開館日	2.不定期に実施	-	遊戯室では靴がすべりやすい状態であったため、靴底をふくよかにしてこの確認を再度周知する。	1.集団活動中・見守りあり	-	夢中になり過ぎないように、声をかけ活動するよう配慮する。	1.いっもどりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	全体を見渡せる位置で、どろいどろいとした動きを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	お迎えの対応や、他の部屋の見守りを行っていた。	-	支援員1名は、必ず全体の声かけを行うようにする。			
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	6										2	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨幹骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	-	職員間で事故に係る情報共有をし、話し合いを行った。	3.未実施	3.未実施	3.未実施	-	不可抗力による事故のため改善点なし。	1.集団活動中・見守りあり	-	遊び場所を見直し、より安全な所を選び、より注意して児童の見守りを行う。	1.いっもどりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	1年生を中心に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1年生を中心に見ていた。	-	安全を守るための研修に再度参加(以前には何度も参加した)し、児童の見守り心かげる。			
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	43										4	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指剥離骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	-	支援員は基本通りには配置しており問題はなかった。	1.定期的 24	24	24	24	グラウンドに落ちた古いタイヤが遊びに使われ、蹴り上げられた。	危険なゴミなどが落ちていないか、グラウンドについても定期的に点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	-	遊びの中で危険な状況がないか、細かな声かけを行うようにする。	1.いっもどりの様子であった	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	支援員が注意したが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時に当該児童の付近にいた支援員は1名であった。	-	児童がグループに分かれて遊んでいる際も、偏りなく見守りを実施する。		
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	49										4	2	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	-	室内で動きのある活動にも関わらず着用していた。	1.定期的 12	12	12	12	今回の事故はハード面に起因するものではないので割愛。	室内で動きのある活動の場合靴下を脱ぎ、徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	室内で動きのある活動にも関わらず着用していた。	室内で動きのある活動の場下は指差す。	1.いっもどりの様子であった	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	宿題を行っている児童を見ながらサッカーをしている子を見つけた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	宿題を行っている児童を見ながらサッカーをしている子を見つけた(至近距離にいた)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の傍にいたが、他児をのり、反対側を向いていた。反対側を向いていた。落下を確認できなかった。立き声により振り向き、本児に掛ける。	-	保育の中で時間管理を行いルール作りを努める。
1442	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22										2	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	-	ひやりハットを利用し、機会を見つけて事故予防検討会を持つ。	1.不定期に実施	1.定期的 12	1.定期的 4	4	遊具不良が原因ではないが、常に気配りし、安全を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	点検、環境整備等努める。	戸外遊びが嫌しくて、いっもどりの様子であった。普段はしない遊び方をしていた(理由を記載)。	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	担任は園庭の本児の反対側にいた。速く手を差した。立き声により振り向き、本児に掛ける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の傍にいたが、他児をのり、反対側を向いていた。落下を確認できなかった。立き声により振り向き、本児に掛ける。	本児が正しい遊び方ができなかった。身がこなしが不器用なため、バランスが取れなかった。	日頃から遊具の正しい遊び方の指導を行う。遊んでいる様子を確認して見守り、保育士等職員全体で共通認識する。				

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故原因		ソフト面				ハード面				環境面					人的面													
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	1. 遊具等からの転落・落下	2. あり	1. 定期的実施	2. 基準配置	3. その他	4. その他	1. 定期的実施	2. 定期的実施	3. 定期的実施	4. 定期的実施	1. 集団活動中・見守りあり	2. 集団活動中・見守りあり	3. 個人活動中・見守りあり	4. 個人活動中・見守りあり	1. 対象児の動き 理由		2. 担当職員の動き 具体的に何をしていたか	3. 他の職員の動き 具体的に何をしていたか	4. その他要因・特記事項	5. 改善策										
1443	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5 2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	2	17.5歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨々折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	3.その他	4.その他	1.定期的実施	2.定期的実施	3.定期的実施	4.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	2.集団活動中・見守りあり	3.個人活動中・見守りあり	4.個人活動中・見守りあり	1.対象児の動き 理由	2.担当職員の動き 具体的に何をしていたか	3.他の職員の動き 具体的に何をしていたか	4.その他要因・特記事項	5.改善策	
1444	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32									3	2	18.6歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	2.基準配置	3.その他	4.その他	1.定期的実施	2.定期的実施	3.定期的実施	4.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	2.集団活動中・見守りあり	3.個人活動中・見守りあり	4.個人活動中・見守りあり	1.対象児の動き 理由	2.担当職員の動き 具体的に何をしていたか	3.他の職員の動き 具体的に何をしていたか	4.その他要因・特記事項	5.改善策
1445	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	17.5歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足韧带損傷・軟骨剥離	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	2.基準配置	3.その他	4.その他	1.定期的実施	2.定期的実施	3.定期的実施	4.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	2.集団活動中・見守りあり	3.個人活動中・見守りあり	4.個人活動中・見守りあり	1.対象児の動き 理由	2.担当職員の動き 具体的に何をしていたか	3.他の職員の動き 具体的に何をしていたか	4.その他要因・特記事項	5.改善策
1446	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5 7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5		2	3						1	1	15.3歳	2.女児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	転倒による左手首下骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	3.その他	4.その他	1.定期的実施	2.定期的実施	3.定期的実施	4.定期的実施	1.個人活動中・見守りあり	2.個人活動中・見守りあり	3.個人活動中・見守りあり	4.個人活動中・見守りあり	1.対象児の動き 理由	2.担当職員の動き 具体的に何をしていたか	3.他の職員の動き 具体的に何をしていたか	4.その他要因・特記事項	5.改善策	







No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																	
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故状況				事故誘因	ソフト面																									
					人数	異年齢構成の場合の内訳					死亡 死因					負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	施設 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検		道具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析・特記事項	改善策	環境面		人的面												
						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳														5歳以上	学童	その他	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	
1453	平成29年9月29日	1.認可	7	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・家庭等)	6.5歳以上児クラス	31						4	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	3.子ども同士によるもの	1.定期的実施	1	1	1	2.不定期に実施	2.不定期に実施	3	3	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	1.集団活動中・見守り	サッカー試合のため、多少の競り合いはあったが、試合を止めないよう見守っていた。	1.いつもどおりの子であった	日頃から活発で体を良く動かす。運動もサッカーも機敏に動いて試合に挑む。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	指導員2名うち、1名は内ゴール前、1名は至近距離で見守っていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	転倒した瞬間は、他児の手当を園庭内の水道(反対側)で行っていたが、目撃していません。指導員2名が目撃し、担任は転倒直後より本児の状態を確認している	転倒した瞬間は、他児の手当を園庭内の水道(反対側)で行っていたが、目撃していません。指導員2名が目撃し、担任は転倒直後より本児の状態を確認している	転倒時に手を添える必要があった。	転倒しそうな際は手を添える。
1454	平成29年9月29日	1.認可	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外・公園等)	7.異年齢構成	128	12	18	24	26	26	22	4	4	18.6歳	1.男児	発生時の天候は晴天。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1	1	1.定期的実施	293	97	1.定期的実施	97	1.定期的実施	1.集団活動中・見守りあり	かけっこをする際に並んだ時、隣の児との間隔がなかった。	走る時(スタート時)は、広がりをあける。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	気持ちの高まりもあり、友達とぶつかる事があった(理由を記載)	子ども達の気持ちの高まりも、焦らないうちにも安全に配慮するべきであった。	1.担当者・対象児を見ていなかった(至近距離にいた)	担当職員の補助が足りなかった。	園生活と違う場面であったので職員も変に対応し空間を活用できなかった。	日頃から走る際の間隔に配慮しながら職員も場所や雰囲気も子どもも習慣化しておくことで、普段通りに近づける。
1455	平成29年9月29日	1.認可	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	1						1	1	13.1歳	2.女児	伝い歩きができるようになり、手を放して一歩二歩と歩かな姿が見られた。安定してきてはいたが、時々姿勢を崩すこともあった。	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左眼周囲部切傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3.個人活動中・見守りあり	事故発生翌日、ベンチの足部分にすべり止めを貼った。また、保育室内でけがると予測される部分に、すべり止めやクッション素材を付けた。	ベンチが動くことで両手で押さえていた	子どもの援助にすべり止めを貼った。また、保育室内でけがると予測される部分に、すべり止めやクッション素材を付けた。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・嘔吐等理由を記載)	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	しゃがんで右ひざを立て、立ち膝をして2台のベンチの間を伝い歩きする本児の後から、両手でベンチを押さえていた。本児がベンチに着いた手が外れて、その指のめりになり目撃し、保育士がベンチの端の木の部分にぶつかけ、そのまま床にしがみついて、すぐに抱き上げて傷口を確認し、主幹教諭に報告した。	職員会議で本件について取り上げ、いつでも何事も起こりうるよう共通理解した。		







No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策					
1463	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6 2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	41	19	2	16	4	7	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕橈上骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.1	1.基準以上配置							1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	40	1.定期的に実施	40			1.集団活動中・見守りあり	1.いつも通りの様子であった	朝の健康観察でも異常元気がなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の担任1人と1歳児の担任6人が、大型遊具の各所を分担任して園児の見守りをしていた。事故の時は、本児の担任は大型遊具のカラー滑り台を1歳児が登るところを補助しており、本児の近くにはいなかった。また、本児の担任は大型遊具の周りで鬼ごっこをさせていたが、遊具の中に入り込んでお遊ばす、遊具の上で鬼ごっこをするのではないという声かけはなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の担任1人と1歳児の担任6人が、大型遊具の各所を分担任して園児の見守りをしていた。スロープには1歳児の担任1人がおり、転倒に気がついてすぐに本児の身体を抱き起こした。	4歳児と1歳児が合同保育をするところによって、4歳児に対しての見守りが希薄になっていたと考えられる。	異年齢が合同で保育する場合は、担任打ち合わせとともに、自分が担任をしている子ども以外の子ども達とルールを確認指導することを徹底する。		
1464	平成29年9月29日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1 2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	34					10	9	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置 事前に準備運動の不足	ボールを使った事前準備運動の不足(粗大運動、微細運動)の実施						1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	常時	コートの大ささと参加人数のバランス	十分な動きが楽しめるコートで行う。	1.集団活動中・見守りあり	ボールの空圧、及びボールの素材	柔らかいボールを使用する。ボール中の空気を事前に確認し安全な空圧にする。	1.いつも通りの様子であった	ドッジボールを好んで遊んでいた	2.対象児の動きを見ていた	子どもと一緒にドッジボールに参加していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の幼児に当たっていた	幼児の動きの把握と日頃のボール遊びの経験を増やす。	
1465	平成29年9月29日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4 1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	43					5	5	16.4歳	1.男児	外で遊ぶことが好きで、活発。	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕橈上骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		登園時間の自由あそび中、園庭に出られることのできる職員が限られていた。	登園時間の自由あそび中、園庭で子どもに囲われている職員の見直し。						2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	園具遊具の配置	園具遊具の使用法について、検討や確認をした。	7.その他	登園時間中に担任に近い状況であった	自由あそび中の園庭にも、保育者が目が行き届かなかった	1.いつも通りの様子であった	その日は、保育士が高揚していた	4.対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任は室内にいたが、他の職員2人が少し離れたところで園児全体を見ていた。	回転している遊具に、立てて乗った可能性がある。	遊具の使い方を再度確認。また、自由あそび中も保育者の目が届くようにした。				

















No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日												
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面														
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニユアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策							
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																												5歳以上	学童	その他				
1487	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業-午前10時頃) 2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	91	24	18	26	20	3	12	12	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左両前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	ターザンロープは必ず座って乗る。立ちこぎをしない。登らないこととする。また園庭遊びの約束を再度見直し、職員に周知する。子どもたちに危険なことを具体的に伝える。約束の内容・保育の留意点を非常勤職員にも指示と口頭で周知する。	1.定期的 12	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	ターザンロープ・ブランコは、人数や配置によって正規保育士が設置するしなないが、状況で側に着く。	1.集団活動中・見守りあり	ターザンロープ・ブランコは、園庭の状況を見て正規保育士が設置する。	1.いっもどおりの様子であった	いつもどおり活発であった	3.対象児が離れたところから対象児を見ていた	幼児担当職員が直前に注意していたが、少し離れた所の対応を待っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	幼児担当職員全員の動きを見ていた	クラス担任は不在であったが、代わりの保育士が入っていた。	乳児職員も一緒に保育するので、注意を必要とする子どもを細かく見届けていく。	
1488	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9	4	1	4		2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕(尺骨・橈骨)骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	職員は全員の事故防止マニュアルを定期的に再確認することが大事である。	職員は全員の事故防止マニュアルを定期的に再確認することが大事である。	1.定期的 2	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	子どもの体力・状況に合わせた遊びをする。思い付きで遊ぶのではなく、夕方の遊具の遊具をたてて安全に遊ぶことを考える。	1.集団活動中・見守りあり	テーブルの遊びが楽しかったようだったので挑戦しようとした。	いつもどおりだったが、ジャンプ台の遊びが楽しかったようだったので挑戦しようとした。	4.対象児の動きを見なかった	テーブルの前を3歳児が2人通りかかったので、危ないから誘導していた。その近くにはジャンプ台に登った対象児の動きを見なかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	片付けの時間になったため、声掛けから一度入ってきた。	片付けの時に職員が1人になった。	他のクラスでも手助けを必要とする子どもを細かく見届けていくこと。	
1489	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25					1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	5歳児保育の際起きた事故ではあるが、園児は園上での遊びのルールは十分に知っている年齢である。	どの職員も個々の園児の特性を把握していき、個々の特性を理解してサポートする。	1.定期的 12	1.定期的 12	2.不定期に実施 12	12	屋上にはゴムチップがある場所がある。転倒した際のクッションにはなっていない。	1.集団活動中・見守りあり	よりスペースのある場所に、横倒した際のクッションにはなっていない。	1.いっもどおりの様子であった	運動に興奮した対象児が、1人で遊んでいた。	3.対象児から離れたところから対象児を見ていた	園児の近くで他の園児の補助をしていたが、慎重に遊ぶ対象児が1人で遊んでいた。その近くにはジャンプ台に登った対象児の動きを見なかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	保育士1人が保育していた。	食後の自由時間、担任以外が保育にあたっていたが、一年を過ごしている園児の特性を十分に把握していた。	保育士の立ち位置と園児の特性を把握し、事故にならないよう配慮する。
1490	平成29年9月29日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	4	5	4	1	7	9	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	1.意識不明	1.頭部	熱性けいれん 脳震盪 脳炎	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	受け入れ時、受入表の記入を保護者にお願するだけでなく、園児の様子を細かく伝えてもらう	朝・夕の合同保育は、広い保育スペースでおこない、転倒時に頭部等をぶつけないようテーブルや椅子を使用しない	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 1回/週	登園前に検閲していたが、登園後も検閲の検温。午睡時は保育士で寝て、尚且つ防犯カメラから見える位置で寝かす。	1.集団活動中・見守りあり	テーブルにおまもごを遊びました。	1.いっもどおりの様子であった	3.対象児が離れたところから対象児を見ていた	遊んでいる子どもたちが見渡せるように、少し離れたところから見ていた。倒れたに気づき、対応する。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	同室内に保育士1名いたが、他の園児と遊んでいたが、気づかずに遊んでいた。他職員数名は乳児の保育で、施設職員室にて事務仕事をしていた。	対象児・まわりの園児の対応に遅れ、早急に対応できなかった。	対象児の様子・異常をすぐに察知し、発作を止める。大声で他職員を求めた。		



















No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	事故に 状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				ソフト面				ハード面				環境面				人的面																		
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名	事故 誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
1517	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12 7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	47																												5													20.8歳	1.男児		2.室内活動中
1518	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4 9.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23									3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 実施	1	1.基準以上配置	危険な可能性がある場合には注意喚起を徹底する。	1.定期的 実施	12	1.定期的 実施	1	2.不定期 実施			3.個人活動中・見守りあり	児童各々が活動中、敷地内を分かれて遊んでいるので、全体に目が届きにくい状況になる。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児等を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守り等をして見守っていた。	敷地内に分かれて遊んでいるので、全体に目が届きにくい状況になるため、適切な場所にて見守りする。					
1519	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4 7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	66									5	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指付け根骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 実施	1	2.基準配置	今回の事故は、普段と違う飛び方をしたことによるもの。	遊ぶ場所や遊具の使い方の違いや遊び方のルール等を徹底する。	1.定期的 実施	開設時毎日	1.定期的 実施	12	1.定期的 実施	開設時毎日	遊具の使い方や遊び方の違いで事故となったもの。	遊具の使い方や遊び方のルール等を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	指導員3人で、全体的に児童達の遊ばせの様子を見ていたが、普段の飛び方を見守りできていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守り等をして見守っていた。	見守り係員の見守り範囲を拡大し、遊び場の隅々まで見守りを行う。	外遊び時の見守り指導員を増やし、目が届きにくく、監視エリアを定め、巡回しながら遊び方の見守りや遊び方の指導を行う。	
1520	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4 7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	65									7	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手親指不全骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	1.定期的 実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期 実施	2.不定期 実施	2.不定期 実施	2.不定期 実施			1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	痛がってうずくまっていたが、歩けなくなったので、すぐに施設に連れ戻り様子を見る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と関わっていた。	特になし	遊びやスポーツのルールを周知、徹底。			



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況			事故状況			事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面			ハード面				環境面				人的面												
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策					
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	学童	その他		
1526	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	27						19	1	21.9歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	8.その他	1.あり	3.未実施	2.基準配置	平素より災害マニュアルにより避難訓練を行っていたが、今回の事件では職員対応、避難ルート及び近隣の連携が欠け生かされた。	防犯訓練実施。各児童クラブに防犯用品を配布予定。防犯マニュアルを作成予定。	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	子ども園内の児童クラブの環境に於いて、緊急通報装置等の設置予定。	各児童クラブの環境に於いて、防犯カメラ・緊急通報装置等の設置予定。	1.集団活動中・見守りあり	子ども園内の児童クラブの環境に於いて、防犯カメラ・緊急通報装置等の設置が必要と思われる。	防犯マニュアルを作成し、児童の等々の体制及び保護者への引渡し時等の体制を再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見つけた	対象児を誘導した	1.担当者・対象児を見ていた(至距離にいた)	対象児を犯す身をして居た	子ども園内のクラブの、事件当日は多数の保育士と児童クラブ支援員が避難誘導等を分担して行っていたが、一般的なクラブは人材不足のため支援員2-4名体制であるので児童の見守り体制等の再確認が必要と思われる。	
1526	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	44					5	2	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的 1	2.基準配置	特になし。	なし。	2.不定期 12	2.不定期 12	2.不定期 12	特になし。	なし。	3.個人活動中・見守りあり	特になし。	なし。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見つけた	応急処置として、保冷剤で冷やした。その後、遊ばせようとしたが、骨折の可能性を低く捉えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室Bにて、他児童の遊びに対応していた。	特になし。	なし。
1527	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	39					4	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 1	1.基準以上配置	具体的な事故を想定した日頃の研修等がなかった。	具体的な事故を想定した日頃の研修等がなかった。	2.不定期 随時	1.定期的 12	2.不定期 随時	遊具や玩具の遊び方について、ルールが曖昧になっている部分があった。	遊具や玩具の遊び方を定期的に指導する。	1.集団活動中・見守りあり	建物内のトラブルに際しては、指導員が見守っている中である。	危険だと感じる遊具については、指導員が見守っている中である。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	児童に特定担当者をつけていない。建物内でトラブルがあったため、対処している間に事故が発生した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故のあった遊具を使用する際は、必ず一人そばにつきようとする。	遊具の上で立ち回った場合、同級生を助けようとするよう指導した。	友達を危険な状況に陥らせた場合は、必ずそばにつきようとする。
1528	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	46					4	2	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 1	1.基準以上配置	具体的な事故を想定した日頃の研修等がなかった。	普段の様子から特に注意すべき場所、時間、人について情報共有する。	2.不定期 随時	1.定期的 12	2.不定期 随時	体操遊びは禁止されていたが、ルールが徹底して守られていなかった。	体操遊びの必要なルールは確実に守らせるよう指導する。	1.集団活動中・見守りあり	体操遊びの禁止を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	児童に特定担当者をつけていない。近くに支援員がいたため、異変の発見後、すぐに対処をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童に特定担当者をつけていない。近くに支援員がいたため、異変の発見後、すぐに対処をした。	日ごろから体操運動については見つけ次第、やめさせる。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故原因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																						
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等					死亡	負傷	診断名			マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	道具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策													
1529	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	16										2	1.22.10歳	2.女児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	5.他児から危言をえられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	うちわを投げた子や周りの子にもうちわを投げる危険性を周知できなかった。	日頃より、今以上に学童児に物を投げないなどを含め事故防止の指導をしていく。危険な行動をしたら周りにいる子も注意をし、職員に知らせるようにしていく。事故予防に指導員も学習をしていく。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	随時	今回の怪我には、ハード面は要因がないと考えます。	施設の安全点検はチェックを作成して、点検する。	4.個人活動中・子どものみ	怪我が起きた場所がグラウンドに続いているが、死角になる。	死角になる場所でも遊んでいる時は、職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	室外には職員がいて障害児を含めた1年生とボール遊びをしていたが、怪我をした子の場所は時々様子を見ていたが、常時ではない。鼻血の対応をした時は、室外に職員がいない時があった。うちわを投げる場面はみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に2か所に各々1人づつ、公園へ1人引率だった。		行動が幼い子どもに配慮をこころがける。
1530	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	46									4	2.18.6歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	特になし。	なし。	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	特になし。	なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	なし。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	みんなで帰る途中他の児童に声を掛けをするの対応をため、対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室に居て他の児童と関わっていた。対象児が転倒したため、処置として保冷剤です。		なし。	
1530	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	9									3	2.19.7歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上前腕骨折	1.遊具等からの転倒・落下	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	該当場所では遊ばない。	遊ぶエリアを変える。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	継続的に点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	校庭ではなく、広場であったため、危険なところがあった。	危険なところの見守り区域の周知。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	全体を見守る職員2名、アルバイト1名	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員は各所に配置して見守っていた。	学校では、登っている場所であったが、学童ではだめだと話したので、まどか登るとは考えていなかった。		児童を見守るときに気を付ける。
1532	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	140									8	2.19.7歳	1.男児					7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	保護者が目を離したため、目を離さない。	自動車で来るまで子どもを離さない。	1.定期的実施					駐車場では話などは来たらすぐと保護者を守ることを守る。	7.その他	子ども達にはお迎えが来たらすぐと保護者よう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童の掃き掃除をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の掃き掃除を手伝っていた	駐車場で事故が起きたら直ちに支援員を知らせてもらうよう徹底する。				
1533	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	82									9	1.18.6歳	1.男児					2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転倒・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	児童の様子にもっと気を配る。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	庭の樹木、ブロックなど危険がないか。	常に見回り。	1.集団活動中・見守りあり	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	泣き声を聞き素早くそばへ行き対応できている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	軽い打撲と判断し、全支援員に伝達することができていなかった。		雲梯の近く支援員等を配置。			









No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日												
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面														
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか
1548	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27									3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首刺離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 実施	1	1.基準以上配置	危険な可能性がある場合には注意喚起を徹底する。	1.定期的 実施	12	1.定期的 実施	1	2.不定期 実施	今回この事故については特に問題なかったと考える。	1.集団活動中・見守りあり	児童各々が活動中は、敷設所に分かれて遊んでいるので、全体に目が行き届くようにする。	1.いっぽりの子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守りをしていました。	敷設所に分かれて遊んでいるので、全体に目が行き届くように支援員が適切な場所にて見守りする。	
1549	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54									5	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨遠位骨幹端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期 実施	2.基準配置	今後危険な箇所では遊具の注意をすべく指導する。	1.定期的 実施	2.支援員が毎日実施	1.定期的 実施	2	1.定期的 実施	2.支援員が毎日実施	遊具の使用ルールにはずれないよう指導する。	1.集団活動中・見守りあり	児童には、遊具の使用ルールにはずれないよう行動をしないよう指導する。放課後児童クラブでは、放課後児童クラブの注意事項を改めて児童にわかりやすく指導する。	1.いっぽりの子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	最寄りの職員は遊具と反対の方向にいた児童の見守りをしていました。落ちた直後に付近で遊んでいた児童に呼ばれ、児童の怪我が気づき、保護者への連絡等対応を行った。	現場から他の場所で見守っていました。	怪我をした児童は、1年の時から同じ学校で、放課後児童クラブを利用して2年以上学校の遊具で遊んでいるので少し油断があったと思われる。	
1550	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39									6	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	怪我のリスクが高い場所を認識出来ていなかった。	2.不定期 実施	2	2.不定期 実施	10	2.不定期 実施	6	施設内だけでなく、施設外の校庭で点検が不足し、危険性を認識できていなかった。	1.集団活動中・見守りあり	子ども自身が思う場所を認識できていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもがぼり棒の棒を見ている状態が、その時に滑ったのを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う遊びのグループになっている子どもも同じ当っていた。	職員全体で危険箇所の把握が出来なかったため、その場所の人に配置できなかった。	職員で改めて危険箇所を把握し、その場所に配置できなかった。
1551	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43									3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折(右橈骨若木骨折)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 実施	1	2.基準配置	支援員・補助員が特に気を付けていることは、行動が活発な児童については、目を離さず常に怪我に付くことを予測しながら保育を心がける。	2.不定期 実施	2	2.不定期 実施	2.不定期 実施	体育倉庫には、一人の支援員がいて、追いかけて遊んで足を引きつらなことがあったので、今後体育倉庫側には近づかないように注意する。	1.いっぽりの子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊び時は、一人の支援員が追いかけて遊んで足を引きつらなことがあったので、今後体育倉庫側には近づかないように注意する。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	外遊び時は、広範囲になるが、放課後児童クラブの支援員が怪我をしないよう注意していた。	体育倉庫には、切り株があり、追いかけて遊んで足を引きつらなことがあったので、今後体育倉庫側には近づかないように注意する。			













No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策					
1568	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	72									6	3	18.6歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	特になし。	支援員等の配置人数に問題はなく、ソフト面のみ考慮することが可能な事故であった。	1.定期的 1	1.定期的 1	1.定期的 1	1.定期的 1	特になし。	施設等に問題はなく、ハード面のみ考慮し得ない事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	支援員等が子どもたちを配りしやすに配置する。	1.いっぽりの子であった	4.対象児の動きを見なかった	事故現場が支援員から見て石山の裏側であったため、直接児童が見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の場所でも外遊びをしていたため、事故現場を見なかった。	特になし。	道具を使う等の危険度の高い遊びについては、支援員を配置できるようにする。		
1569	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26									4	1	22.10歳	1.男児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	特になし。	支援員等の配置人数に問題はなく、ソフト面のみ考慮することが可能な事故であった。	1.定期的 1	1.定期的 1	1.定期的 1	特になし。	施設等に問題はなく、ハード面のみ考慮し得ない事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	室内で卓球をする時は、子どもたちが一面所に集まっていたこと、子どもが卓球をしていて、興奮していた状態であった。	1.いっぽりの子であった	4.対象児の動きを見なかった	子どもたちが一面所に固まっていたので、その児童の児童に隠れていて、支援員が直接見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他にも別室の室内遊戯をしていて、児童がいたため、事故現場を見なかった。	特になし。	遊びの危険度に応じ、配置する支援員の数を要する。			
1570	平成29年9月29日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	59									5	2	20.8歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・手指)	右肘骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアル、研修ともに実施していない。	事故予防に関する研修を実施する。または、同様の研修会に参加する。	1.定期的 1	1.定期的 1	1.定期的 1	グラウンドの整備状況にも配慮し、子どもが走りやすい状態を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	適度に声を掛け等を行い、休憩を取らせたりして事故防止に努める。	1.いっぽりの子であった	4.対象児の動きを見なかった	支援員は、ハンドボールをしている4人の児童を5～6mくらい離れたところで見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	校庭では支援員1名、補助員1名で見守っていたが、補助員は事故現場から50m離れた場所から捕り子どもたちの見守りをしており、ハンドボールをしている児童と担当者を見なかった。	遊戯に一部参加するなどして児童の遊戯がエスカレートしないよう抑制していく。					
1572	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15	2	2	3	5	3				3	3	17.5歳	2.女児	特になし				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・手指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 3~4	2.基準以上配置	今回の事故では、人員的配慮はなかった。	本児の運動神経や力を養う活動が多く取り入れていく家庭では、カルシウムを強くしようと努めている。	1.定期的 1	12	48	48	48	今回は遊びに集中し、周りに危険物やつまみ物がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	当時は異年齢でしたが、特に無理な構成はなかったと思います。	1.いっぽりの子であった	普段から活発に遊ぶ園児である。特になし。	2.対象児の動きを見なかった	全体を見ながら子どもと遊んでいた	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	同じように全体を見ながら子どもと遊んでいた	特になし	子ども一人ひとりの様子を見守る
1573	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									13	13	18.6歳	2.女児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・手指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 1~2	1.基準以上配置	担当保育教諭の記入に専念できるよう、子どもは他の保育教諭を配置する。	1.定期的 1	12	12	2.不定期に実施	今回の事故は、園庭で自ら転倒したことから、ハード面での問題はなかったと思われる。	2.集団活動中・子どものみ	今回の事故は、この年齢の子どもの遊びに、縄跳び遊びは、この年齢の子どもの遊びにふさわしいと思われ。	1.いっぽりの子であった	縄跳び遊びは、この年齢の子どもの遊びにふさわしいと思われ。	4.対象児の動きを見なかった	園庭で遊ぶ園児の様子を園舎ベランダに座った状態で見守りながら、連絡帳の記入を行っていたため、実際に本児が転倒したところを見なかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	休憩中であって、他の園児の午睡の入りかたを見ていた。	担当保育教諭の記入に専念できるよう、子どもは他の保育教諭を配置する。				





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策											
1580	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	76	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	8	8	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	左肩・鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的	1.5	1.基準以上配置	園内研修の内容を見直し、事故防止に対する職員の意識を高める。	1.定期的	300	1.定期的	300	1.定期的	300	特に問題なかったと思う。	1.集団活動中・見守りあり	園外であつたため、子供たちの気持ちも高ぶつたように思う。	かけっこができる環境を整え、職員が危険な見届けをする。	1.いっもりの様子であつた	競争心が芽生え、興奮気味になつたので、つい周りが見えにくく走つた。	かけっこを見守っていたが、瞬間的に隣の園児とぶつかり転倒したため、すぐそばに駆け寄つた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を順番に並ばせ、他の準備をしていたため、見ていなかった。	保育教諭の人数は多かったが、園外であつたため、保育教諭も園児も気がつかなかったと考える。保育教諭は運動会が間近だったため、焦つて様子を見受けられた。	保育教諭が適切な声掛けを行い、いっも以上以上に気が掛けることが大切である。
1581	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	17.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	69	17	17	16.4歳	1.男児					17	17	16.4歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰園中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的	3	1.基準以上配置	事故防止の研修を何回も実施し、危険な場所、時間帯について一層の注意を図る。バス待ちの職員配置を一名増員する。	1.定期的	3	1.定期的	3	1.定期的	3	除雪で遊んでいる園児に、友だちを押さなうに注意を行う。	1.いっもりの様子であつた	友だちを押し、危険なことを認識してもらつた努力を行う。	3.対象児から離れたところで見守っていた	園児全体と、個々の園児に対しても危険な遊びをしていかに気を配る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員同士を声掛けを行い、人数が足りないと感じたときは、援助を頼む。	園児に頻繁に声掛けを行う。職員同士で連携して声掛けを行い事故防止に当たる。					
1582	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	2	6	4	4	13.1歳	2.女児			4	4	13.1歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左第3指不全切断	8.その他	2.なし	1.定期的	1	2.基準配置	市作成の事故予防マニュアルを、誰かが取りやすく、すぐに閲覧できる場所に常備する。また、職員一人一人が改めて懇切丁寧な保育を行うことが、また、チームでも子ども達全体の動きを把握できるよ、日々の伝えあいや声掛けと連携が望ましい。	2.不定期	2.不定期	1.定期的	1	1.定期的	1	施設・遊具の安全点検を定期的に行うことと、安全を確保できず危険を伴う場合は、机を置いてみる等、安全面からも環境構成を把握する。	1.集団活動中・見守りあり	机を片付ける際、安全を確認せず、子どもを落とす危険を伴う場合は、机を置いてみる等、安全面からも環境構成を把握する。	机などの保育用品を移動させる際は、子どもを落とす危険を伴う場合は、机を置いてみる等、安全面からも環境構成を把握する。	1.いっもりの様子であつた	事故当日、対象児に特変はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	机をすぐに片付けることに意識が向き、対象児の動きを見ていなかった。机は指詰防止として折り畳み構造になっていないが、早く片付けたいという意識が先行すると、必要以上に力をいれて折り畳むという動作が行われていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれを迷わしている中、たまたまこの十分を確認せずに机を片付けた。	乳児全員が離れたところからこの十分を確認せずに机を片付けた。	備品や道具類を移動させる時は必ず乳児が安全なところに座っているかを確認してから行う。	





No	概要				発生の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故時状況				事故原因	ソフト面					ハード面					環境面					人的面									
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策							
1587	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	3	17.5歳	1.男児	足の形がX脚。小さい時から足が絡まって頻りに頻りに踏んで、指摘されていた。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	1.定期的に実施	2.不定期に実施	1.定期的に実施	随時	事故予防チェック表を再開して、定期的に点検できるように、チェック表の見直しをしている。	1.集団活動中・見守り	夕方・広いグラウンド。	活動前の事前注意	3.いつもより活発であった(理由を記載)	いつもより、着きながなく午前中での保育でも、注意をされていた。	4.対象児の動きを見えていなかった	担当保育士が対応をしようとしていた。	2.担当者・対象児の動きを見えていなかった	他の子どもと遊んでいて当該児を見えていなかった。	職員同士の連携が不十分。	お迎えなどの状況変化が起きたときは、職員同士で声を掛け合って全体から目を離さないようにする。
1588	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	20									5	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2-3	1.基準以上配置	子どものケガ(骨折)に対する知識を持ち、あらゆる事故に関する想定	全職員が常に意識をもって点検し、危険箇所を改善する。	3.個人活動中・見守りあり	元気がいい走りこんで来た時は、一旦子どもを落ち着かせるよう、声をかける。	1.いつもより活発であった	広い廊下から、トランポリンをめぐって元気いっぱい走りこんで来た。その後トランポリンを2回跳び、衝撃を和らげるために敷いていたマットに倒れこんだ。	2.対象児の動きを見えていなかった	対象児がマットから落ちないように、受けようとしていた。	2.担当者・対象児の動きを見えていなかった	幼児少人数ずつに分かれて、いろいろな場所で遊んでいた。他の職員はいなかった。対象児の場所には、幼児2名と保育士1名であり、のびのびと遊べる環境であった。		活発な幼児がケガをしないよう見守り方を考慮し努める。			
1589	平成29年12月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									4	4	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面挫創、左記痕ケロイド	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的な実施	10	2.基準配置	職員一人一人が積極的に危機管理意識を持ち研修すると共に、細かい部分まで確認しながら積極的に予防し、安全な保育に取り組み、事故対応時、園内だけで判断するのではなく、市の保健師と連絡を取り合いながら行う。	安全面に欠ける物の置き方を確認し、子どもの動きを考えた保育環境を整備する。	1.集団活動中・見守りあり	練習のために置いていた机の位置や、手に物を持って歩くなど不適切な面があった。	1.いつもより活発であった	発表会の練習で遊戯室からクラスへ歩いて戻っていた。	4.対象児の動きを見えていなかった	対象児は少人数で歩いていた。転倒した音で声を掛けて状況を把握した。転倒した瞬間を見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見えていなかった	クラス担当は1名なので、他の職員は見えていなかった。	クラスに戻るにきれいに整理しておらず、対象児や同じグループの友達が発表で使う小道具の箱を束ねずに手に持ったまま歩いていたので、そのリボンで転倒してしまった。	整理して歩くこと、手に持って歩かないこと、危険管理を持って歩かないこと、子どもを考えた保育環境を整備する。	整理して歩くこと、手に持って歩かないこと、危険管理を持って歩かないこと、子どもを考えた保育環境を整備する。		









No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日								
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故に あった 子どもの 状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故 誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面									
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項
1600	平成29年12月28日	1.認可	5.幼稚園	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20							2	1.15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	職員間の連携をとったり、保育室内の遊びや戸外遊びの様子を守ったりするよう指導しているが、改善が必要な箇所は迅速に対応する。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	2.不定期 に実施	12	月1回は必ず点検しているが、今後、日々 の環境整備の時も気を付け、改善が必要な箇所は迅速に対応する。	4.個人 活動中・子どものみ	玩具や遊具を使った遊びの場を見直しをする。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育室にいた支援員がその場を観ていた。	年齢も低い ため、保育室を離れる 場合は、近くの職員に 声を掛けて安全を確保 するようにする。
1601	平成29年12月28日	1.認可	5.幼稚園	9.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40						4	2.17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準配置	マニュアルの「未然防止のためのポイント」をより具体化する。園内研修の内容を充実させ、未然防止の意識を高める。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	遊び環境の設定の仕方と職員の見届けの体制に配慮する。	1.集団 活動中・見守りあり	遊び環境の設定の仕方と職員の見届けの体制に配慮する。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ぶ、他の年長児に 対応していたため、対象 児を見なかった。	一人一人の 心身の状態や性格、普 段の動き等、職員が 把握しておき、様々な 危険予測をしていく。	
1602	平成29年12月28日	1.認可	5.幼稚園	11.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63	23	40			6	3.17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.0.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・手指)	右足関節外顆離断骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	マニュアルの「未然防止のためのポイント」をより具体化する。園内研修の内容を充実させ、未然防止の意識を高める。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	遊び環境の設定の仕方と職員の見届けの体制に配慮する。	2.集団 活動中・子どものみ	戸外での自由遊びの時間は、特に安全面がら、遊べる環境と職員の見届けの体制に配慮していく。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	友達と鬼ごっこをしたり、遊具で遊んだり、戸外遊びを思い切り楽しんでいる状況だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の子どもを遊ばせていたため、本児が落ちた瞬間は見えていなかった。	園庭で遊ぶ園児の対応をしていたため、対象児を見なかった。	小グループの子供たちと開わり、一緒に遊んでいる中でも、周囲の子供たちの様子にも、常に気を配って心掛け、事故が起きないよう注意していく。

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況					事故状況					事故発生の要因分析															掲載更新年月日									
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故に状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面					人的面												
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策											
1603	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	3.7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	3	2	2	2	1	1	4	4	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	12	1.基礎 配置	自由遊びの時間中、職員も遠くまで見守り、職員が気づかずに、保育士から話しかけ、周知徹底した。	午後5時～6時までは、フリータイムで、子どもが自由に遊ぶことができる。保育士は、保育士が気づかずに、保育士から話しかけ、周知徹底した。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	320	3歳以上児保育室、異年齢保育を行う為、保育室を縦や横に仕切ることが必要である。背の高いものは、全体が見通せなくなる。保育士は、保育士が気づかずに、保育士から話しかけ、周知徹底した。	1.集団 中・見守りあり	保育室が変化する場合は、再度室内の方を声掛けするなど、子どもが落ちた状態を確認する必要がある。	4.具合 が悪かった(熱発・腹痛・嘔吐・風邪等理由を記載)	健康状態はいつもと変わらない状態であった。他児との力のかかり、力の加減できないことがある。	3.対象 児から離れたところで対象児を見守っていた	自由遊びの時間中、4人の担当保育士が、対象児を見守っていた。	2.担当 者・対象児の動きを見ていなかった				自由遊びの時間もコーナー遊びなども設け、しっかりと全員が目を見ていく。
1604	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	4.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	8	4	3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第1趾中足骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的 に実施	24	2.基準 配置	延長保育対応の部屋でも、16:50分には2歳児が17:00分には1歳児の保育室に落ち着かない状況であった。0.1.2歳児以上の保育スペースは分け、子どもの人数に対する人員配置はしている。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。1.1歳児の保育室に落ち着かない状況であった。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。1.1歳児の保育室に落ち着かない状況であった。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。	牛乳パックの積木の玩具は、手作りであり、これまでも椅子にしたり、つなげて平均台のようにして保育士が寄り添って一緒に遊ぶなど、安全な状況であった。また、1.2歳児の保育室に落ち着かない状況であった。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。1.1歳児の保育室に落ち着かない状況であった。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	2.不定期 に実施	随時	牛乳パックの積木の玩具は、手作りであり、これまでも椅子にしたり、つなげて平均台のようにして保育士が寄り添って一緒に遊ぶなど、安全な状況であった。また、1.2歳児の保育室に落ち着かない状況であった。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。1.1歳児の保育室に落ち着かない状況であった。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。	3.個人 中・見守りあり	1.一人 ひとりの様子を見て、必要に応じて保育士が寄り添って一緒に遊ぶなど、安全な状況であった。また、1.2歳児の保育室に落ち着かない状況であった。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。1.1歳児の保育室に落ち着かない状況であった。4月の異動で担任が変更されたことにより、新しい職員を配置することになった。	1.1.いつ もどのお りの子 であった	新しい環境の中、不安や戸惑いなど、元気に遊んでいました。	2.対象 児に近 距離で 見守り していた	対象児を見守っていたが、他児のトラブルに巻き込まれてしまった。	1.担当 者・対象 児の動き を見てい なかった	他児と一 緒に遊ん でいたた め、対応 が難しく なった。		4月は異動で職員が変わったり、子ども達も進級でクラスが変わったりして環境が変わることで落ちこぼれ、4月には予想されたよりも早く子ども達の状況把握に努め、情報共有を持って、一人ひとりの動きや危険性を予測し、見守りを行う。事故防止の意識を高め、職員間で話し合い、改善する点などは改善し、安全に過ごすよう配慮する。					





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面		ハード面				環境面		人的面																			
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
1609	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5.1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	39	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.遊具等からの転落・落下	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左両前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	毎日	2.不定期に実施	1~2/月		1.集団活動中・見守り	2歳児が合同保育に慣れるまでは、跳び箱の設置はしない等環境設定の見直し。また、落ち着かない雰囲気の時にはしっかりと声をかけ一度落ち着いて取り組める環境を整えてから再開する。	跳び箱の順番待ちの子も含めホールの雰囲気もあまり落ちていない様子だった。	1.いつもおりの様子があった	跳び箱5段は普通の子で、その日もケガをすも通りの跳び箱が、この時にはバランスを崩し着地に失敗してしまいました。	跳び箱は高さを変えて2台設置されているが、2人同時に跳ばせるとはせず対象児の跳び箱に立って見せていた(対象児に接して)	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接して)	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の遊びのコーナーにいたことがあった。	跳び箱はケガに繋がりにくいことを職員全員で再認識し、待っている子ども達の様子等は他のコーナーにつく職員も気にかけてみていく。今回の事故や改善点をもとに跳び箱の練習方法、配慮点等について今後勉強会を行いマニュアル化し再発防止に努める。	
1610	平成29年12月28日	1.認可	6.認可保育所	5.8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12									2	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指末接骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	52	1.集団活動中・見守り	両開き引き戸の指を挟まなかったため、さる引戸の高さを高くする。引戸の開閉に片開きもできる固定器具(鍵)をつける。	園児の引き戸の開閉についてヒヤリハットに記載していた	具体的な事例がなかったので、さる引戸の開閉に片開きもできる固定器具(鍵)をつける。	両開き引き戸をさる引戸の高さを高くする。引戸の開閉に片開きもできる固定器具(鍵)をつける。	2.対象児から離れたところで見守っていた	3.対象児が来たところで見守っていた	クラスの全員に絵本を読ませたり、当該児が呼ばれてトイレに行くことを把握して、もう1名が当該児について行ったが、トイレに行きたいと思いついてはさめた。	絵本を見ている当該児を小ホールから誘った。やつてきた当該児と両開き引き戸で交換した。おむつ交換中だったため、おむつ交換を始めた。おむつ交換を始めた。おむつ交換を始めた。おむつ交換を始めた。	お部屋からトイレのある小ホールへ移動する際は、十分な見守りが出来るように、園児数名がトイレの順番を待つベンチに来るまで、保育士はおむつ交換等の動作はしない。ドアは固定している状態にする。	当該児と他児と一緒にドアを開けをしに間に合わなかったこと、子どもがトイレのベンチに来るまでの移動の見守りをせずにおむつ交換を始めたこと、他児が当該児について行ったが、おむつ交換を始めたこと、おむつ交換を始めたこと、おむつ交換を始めたこと。			















No	概要			発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日										
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者				事故の転帰				ソフト面				ハード面				環境面		人的面												
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策			
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	学童	その他
1624	平成29年12月28日	3.その他	13.子育て援助活動支援事業(ファミリーサポート・センター事業)	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)								15.3歳	1.男児	2名(兄妹)を同時に預かっていた	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左首変形骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	3	当該提供会員は賛成講習会において「子どもと事故防止」(3時間)の講義を受けているが、会員になってまだ2か月であり、フォローアップ研修で再度事故防止の講習を受講する機会がなかった。	フォローアップ研修への参加を促す。									3.個人活動中・見守りあり	提供会員を借りて読み聞かせしたり、依頼会員は対象児童の好きな絵本やおもちゃを持たせて提供員に預けるようにしていたが、興味を失った時に走りまわった。子供が落ちておもちゃの準備やおもちゃへの声かけ方について、提供員が確認し合うように周知する。	1.いっもどおりの様子であった	2.対象児の近くで対象児を見ていた	提供会員は対象児のそばにいて、当該児童が興味を失ったときに走りまわった。子供が落ちておもちゃの準備やおもちゃへの声かけ方について、提供員が確認し合うように周知する。	当該児童の妹と一緒に預かっており、提供会員1人の児童を見ていたため、とっさの対応が困難であった。	子どもは予想できない行動を取ることがある。複数の児童を預かる場合などには注意喚起を行う。
1625	平成29年12月28日	3.その他	13.子育て援助活動支援事業(ファミリーサポート・センター事業)	8.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)								14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	今回の事故の内容を会員に周知し、安全に対する意識を今以上に向上させる。										3.個人活動中・見守りあり	1.いっもどおりの様子であった	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	児童がソファで遊んでいるのを提供員が見ていたが、バランスを崩し落下。とっさに支えようとしたが、間に合わなかった。	事故当時、見守る提供会員がいる中で事故が発生したのでは会員には注意喚起を行うようにする。特に幼児の預かりについては、幼児が高い所に上った場合、提供会員が幼児の両脇を両手で支え見守る。		
1626	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.6.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60					4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手中指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		利用人数に対して指導員数が少ない。	火曜日は利用人数が多いので5人体制にすることにした。外での活動時は1人増加した。	1.定期的実施	12.3.未実施	1.定期的実施	12	定期的に行っているため特になし。	1.集団活動中・見守りあり	グラウンドまわりの道路や駐車場の通行量の多い時間帯に配慮しながら指導員を配置する。ボール遊びはグラウンドの真ん中で行う。	1.いっもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見守っていた	お迎えの車がかかる時間帯のため危険な駐車場の近くには指導員を重点的に配置した。より危険な場所を指導員2名で注意していた。	室内に2名配置し、残りを見ていた。手当ては近隣の指導員が対応した。	グラウンドの広さに対して、また利用人数に対して指導員が少ない。	グラウンドに1名増加する。		
1627	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	42					3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右ひじ上部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		これからも対応マニュアルに沿って行く。		3.未実施	3.未実施	1.定期的実施	3	なわとびで遊ぶ際、アスファルトで行った。	1.集団活動中・見守りあり	これからも活動中子どものみならず見守っていく。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	指導員一人で長縄跳びを回して、転倒の際すぐ対応した。(もう片方は柱に縛って)	室内にいる子どもたちの対応、グラウンドで遊んでいる子どもの対応を見ていなかった。	足が引っかかったときなど、こまめに休憩を入れ、長時間遊ばないよう声をかけていく。				



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																		
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策										
1628	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右ひじ骨折(ひび)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	予防マニュアルの整備と研修の実施。	1.定期的実施	250	3.未実施	1.定期的実施	12	今回の事故は施設、設備に起因するものではないので、改善策はない。	1.集団活動中・見守りあり	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	1.いっもどりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにはいたが、他児童の対応をたてなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の対応をたてたため、見ていなかった	支援員間のコミュニケーションを密にするとともに、活動の様子全体を確認できる体制を確保し、育成支援にあたる。		
1629	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	59	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	7	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕 上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	1.基準以上配置	遊んではいけない場所での危険な遊び。	事故予防マニュアルを作成し、指導員間で徹底。	1.定期的実施	12	48	48	48	48	以前より、ピロティという場所では遊ばない、走らないと注意していたが、この事故後、柵を3セット新たに設ける。更に張り紙にて注意を促す。	3.個人活動中・見守りあり	外遊びへの移動の際、職員も児童が多くなり目が行き届かない状況だった。	移動が終わるまでは、下駄箱前とピロティに職員を必ず1人配置し、行き届くようにする。	1.いっもどりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	宿題の時間終了後、外遊びに備え他児童と共にグラウンドへ行く準備(下足替え)をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びの時間に備え、一輪車の調節をしていた。	支援員の配置はなかったが、わが目を離した時に事故が起きてしまった。	室内あそび、外遊びでの危険個所、危険な遊びについて全児童に注意、指導する。外遊びの際は下駄箱前とピロティには支援員が立ち、出入口及びピロティ付近では遊ばない様に指導する。
1630	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	67	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	6	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右腕 上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	1.基準以上配置	事故予防マニュアルが無く、危険箇所や対応等が共有が支援員間で出来なかった。	事故予防マニュアルを作成し、危険箇所や対応等について支援員間で徹底。	1.定期的実施	12	48	48	48	中庭は、グラウンドのように平らではなく、草が生えているため、転倒事故が起きたと分析しています。	3.個人活動中・見守りあり	毎週火曜日は放課後子ども教室が行われているため、遊べる範囲が制限されています。児童が狭い範囲に集中する為、一輪車で遊び途中、中庭からグラウンドへ移動時に乗車したまま、一輪車から降りて押しながらか移動するように必要だったと思われる。	3.個人活動中・見守りあり	支援員の配置や声掛けについて、支援員間で再度確認し、徹底。	1.いっもどりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	放課後子ども教室があるため、初めは中庭で遊び、放課後子ども教室終了後、中庭からグラウンドへ移動するよう声を掛けながら安全を守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	放課後子ども教室が終わり中庭からグラウンドへ移動するよう声を掛けながら安全を守っていた。	事故当日の支援員の配置は問題なしと思われる。日々練習をして上達し、支援員の手助けなくひとり乗れるようになっていた為、行動範囲が広がった。今後は、降り方等の指導も必要と考えます。	グラウンドへの移動時から降りて、手で押すように指導する。





No	概要		発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制					教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況			事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面		人的面														
			月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策						
1640	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	66							7	5	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	児童館玄関の間で大型遊具付近に職員を配置する。	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	1.定期的実施	48	48	学校遊具を安全に使用出来るよう確認を行うこととする。	1.集団活動中・見守りあり	怪我を少しでも痛みがあった場合は、すぐに職員に伝えるように児童集会で伝達した。また、活動中に適宜休憩を入れクールの時間を設けた。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	2.対象児の動きを見ていなかった	5.0mほど離れたブランコ付近、3.0mほど離れた鉄棒で見守っていた。	遊具を使用する際には、特に安全面に気を付けるよう配慮をする。
1641	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	115						15	7	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	不定期に年1回だけでなく、定期的に数回行う。職員会議では、ヒヤリハットを基に事故発生を予想し、予防に努める。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	ちょっととした段差などがつまづきそうな危険箇所がないか点検した。	1.集団活動中・見守りあり	室内を走らないように児童への声掛けを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	館内全体を見てはいたが、別の部屋へ児童を誘導していた為、室内を走っていた対象児への注意がなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の清掃作業をしていた為、対象児の動きを把握出来なかった。	室内全体を見ながら、走っている児童がいれば声掛けを徹底する。	
1642	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	40						6	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	児童全体に対し、遊具の正しい使い方を行う。	1.定期的実施	52	1.定期的実施	12	1.定期的実施	52	引き続き定期的な安全点検を行い、安全確保に努める。	3.個人活動中・見守りあり	固定遊具使用時は遊具そばから離れず見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他遊具にて、他児への対応であった。(当該遊具からはおよそ5メートルの位置。)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところで他児の見守りをしていなかった。	比較的腕力の弱い児童(1年生等)が遊具にぶら下がる際には、職員が側に付くようにする。	
1643	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	74						9	4	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指骨折	8.その他	2.なし	2.不定期実施	数	1.基準以上配置	リスクマネジメントの研修を受講した。	2.不定期実施	2	2.不定期実施	2	2	使用するボールについて空気が過度にならないように点検をする。	4.個人活動中・子どものみ	小学校の余剰教室を利用した学童保育室のため、校庭で遊ぶ際に学童保育室の在籍児以外にチームをつくる。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	ドッジゲームを見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ゲーム中の子供の骨折事故を予測して対応できなかった。	校庭での遊びのため学童入室時以外が含まれていて、高学年の児童が多いため、球筋が普段より強かった。	ゲーム開始に、児童に相手の学年や体格を考慮し、強いボールを投じないよう注意喚起する。



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制		教育・保育等従事者					年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	0歳	1歳	2歳	3歳					4歳	5歳以上	学童		その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策			
1644	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	20								4	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	8.その他	2.なし	1.定期的実施	2.基準配置		事故予防マニュアルを作成する。	2.不定期実施	2-3	3.未実施	2.不定期実施	200	安全点検に努める。学校との連携を深める。	3.個人活動中・見守りあり	見守りがより一層行きとよう、指導員のチームワークを高め、配置につける。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	指導員は付近にいたが、サッカーに入っていたわけではない。サッカーやアスレチックで遊ぶ子どもを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちを見守っていた。	低学年と高学年が一緒に遊んでいた。	サッカーで遊ぶときに、子どもたちはシュートの力加減に気をつけるように言う。キーパーは無理せず強いシュートを避けてもよいことを伝える。
1645	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	39								5	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕(ひじ)骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置		外遊びの際、支援員の死角がなくなるよう、配置箇所を改めた。	1.定期的実施	12	12	12	12	ヘルメットとプロテクター(腕・足)を購入し、一輪車で遊ぶ際は装着させた。	1.集団活動中・見守りあり	一輪車を限定した場所を使用した。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	「一輪車が上手になりたい」と言って、積極的に活動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故の直前までの様子が見えなかったが、本児が建物の影に隠れてしまったため、事故発生時の様子が見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外に配置した支援員は少し離れた位置にいた事と本児の影で見えなくなったため、事故発生時に目撃してはいなかった。	一輪車を利用する児童から目を離さないようにする。特にまだ不慣れである低学年の児童の場合は、すぐ側に支援員を配置する。
1646	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39								4	3	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置		今回の事例を職員全員で共有し、児童に注意徹底した。	1.定期的実施	24	24	24	24	室内を含め危険予知を常に意識した育成支援を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	全児童、全職員に向けて具体的な例をあげて注意喚起した。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童の横で仕事の仕上げに取り組んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが工程ごとに児童を促していった。	出勤してきた補助支援員に当該児童の意識が強く動いてしまった。	全児童に向けて具体的な例をあげて注意喚起した。
1647	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50								2	1	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期実施	2.基準配置		1人での見守りの際、細心の注意を払う。危ないものは前もって片づける。	3.未実施	3.未実施	2.不定期実施		1.集団活動中・見守りあり	危険を予測し声かけを行う	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	教室には担当支援員は一人だったので、使用禁止に片づけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の様子を見ていた	言葉だけでなく、遊具を実際に取り上げて注意する。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況		診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策								
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																														5歳以上	学童	その他					
1648	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	46						3	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内側上顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	特になし。	十分な人員配置の為。	1.定期的 に実施	定期点検(2年毎)に受けており異常はない	2.不定期 に実施	利用の度に不具合に気づいたらその都度直したり、使用禁止等対応している	2.不定期 に実施	危険と思っ た玩具につ いては回収 している	特になし。	新築供用6年 目で施設整備 に不備なく、 遊具、玩具も 利用の度に点 検している。	1.集団活動中・見守り	特になし。	人員配置が十分の為。	1.いつもど おりの様子 であった	2.対象児 の至近で対 象児を見て いた	一緒に遊んで いた為、該 当児童も注 意をしてみ ていた。事 故発生時 に、個人整 理し児童 1枚で対 応できな いという ことから 支援員同 士の情報 共有と運 搬を密に 迅速な対 応している。	2.担当 者・対象 児の動き を見てい た	2.担当 者・対象 児の動き を見てい た	遊戯室で 遊んでいる 他の児童 の様子を 見ていた。	特になし。	職員はよく 児童の活 動を見てお り、迅速な 対応で対 処している ので、改善 策はない。
1649	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	69						7	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	2.基準以上配置	支援員の事故防止に関する研修の実施。児童への遊びの際のルールの徹底。	2.不定期 に実施	10	2.不定期 に実施	2.不定期 に実施	一輪車の遊ぶスペースは、日陰が少なかったため、体力は消耗していたが暑くない。	遊んでいる最中の声掛けや、上手に使用している遊具であっても、細心の注意を払って遊ばせようとする。	1.集団活動中・見守り	夏休みも後半になり、登校日もあるため、疲れやすいため、上手な子でも気を抜くようにする。	1.いつもど おりの様子 であった	2.対象 児の至近 で対象児 を見てい た	本児の近く に居たため 、転倒した 様子を見て いた。	2.担当 者・対象 児の動き を見てい た	他の児童も 遊んでいた ため、別の 児童を見て いた。	夏休みの夕 方ということ もあり、疲 れもあつた ように入れ る。もう少し 、休憩等 もすべ きであ った。	外回りにつ いては、子 どもの人数 が少なく ても、お 迎えの状 況を把握 したり、狭 い中で数 種類の遊 びをする ため、最 低2人は 支援員を 常に配置 する。					
1650	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	115						12	8	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	3.子ども同士の間によるもの	2.なし	2.不定期 に実施	1.基準以上配置	2	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	12	3.個人活動中・見守り	雨天続きであったため、担当1名が危険を伝えている状況。その他の支援者はホールや廊下などに活動場所に分散して、死角がないように配置されていた。	2.対象 児の至近 で対象児 を見てい た	児童が柵に登っている姿があったため、担当1名が危険を伝えている状況。その他の支援者はホールや廊下などに活動場所に分散して、死角がないように配置されていた。	2.担当 者・対象 児の動き を見てい た	死角がなくな るべくに 配置され たため、事 故発生時 は分散さ れていた。	声掛けの指 示だけでなく、 降りるなど 最後まで安 全確認をお こなす。								

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																			
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因		ソフト面			ハード面				環境面			人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
1651	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	8.学童	33	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	5	2	18.6歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の複雑骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1-2	2.基準配置	職員は全体的に見渡しながら、直ぐに駆けつけられる位置にいた。	スタッフ会議にて遊びのルールの再確認、危険箇所を子ども達に話し、子ども達に話した。	3.未実施	3.未実施	3.未実施	遊具自体には錆などは落ちていないが、定期的には遊具の状態を確認する。劣化した部分は発見した場合には早急に対応を行う。	1.集団活動中・見守りあり	運動会前などで体力が落ちていた可能性がある。	引き続き、適切な声かけを行って行く。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	人数不足というわけではなかった。落下後、すぐに駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故後、他の子ども達を見守る指導員、連絡対応をすばやく行った。	通常遊び方で鉄棒を使ったので、着地で危険な状態だと予測することが出来なかった。	遊具の扱い方が未熟な児童や低学年に、鉄棒等を使用する際は特に見守りを怠らないように配慮する。
1652	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8								2	2	19.7歳	2.女児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、歯根歯折の疑い、上唇小帯裂傷	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	マニュアルの確認等危険予知を常時しておく。	事故予防の安全確認を追加する。	1.定期的実施	2.3.未実施	2.不定期に実施	施設も新しく、今回は遊具等を使用していない状況。	1.集団活動中・見守りあり	活動の内容による場所の設計を考慮する。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	活発な走りのため危険を感じ、場所を変えようとする直前だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	場所移動するための体育館の力ギを取りに行き、子ども達の様子を見守っていた。	支援員による見守りが十分でなかった。	支援員が活発な動きの際の危険性を再認識し、見守りを怠らないように配慮する。		
1653	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9.5.おやつ時(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	38								5	4	18.6歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	今後、事故防止についてのマニュアルを作成する。		3.未実施	3.未実施	3.未実施	定期点検の実施。(点検項目・日時について明記していく)	1.集団活動中・見守りあり	活動場所が複数あるので、職員間の連携を強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	本児も含め、他児数人でおもちゃの片付けをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	おやつ前片付けの時間帯であったため、職員も片付けを見守る職員とおやつのお意をすて、分かれていたので、目が行き届かなかった。		毎月の会議でヒヤリハットの報告・学習を行い、事故防止に努める。職員間の声を密に確認する。		
1654	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36								4	2	18.6歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	次の遊びへ気持ちが移っており、急いでいる様子だったので職員の声掛けや補助等、安全での配慮。	学年・体格にあった遊具の使用、安全な使い方指導。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	次の遊びへの気持ちが移っており、急いでいる様子だったので職員の声掛けや補助等、安全での配慮。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちの心身の把握の徹底。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が落下するのを差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の遊びの対応をしていた。	子どもたちの動きに合わせた職員配置。	子どもたちの動きを把握し、遊具の安全な使い方の指導を行う。		

No	概要		発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制					教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面		人的面																	
			月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策							
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死因	負傷状況	受傷部位	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】											
1655	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	91						8	8	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	捻挫	8.その他	2.なし	3.未実施	2.基準配置	職員配置は基準を満たしていたため特に改善策はない。	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	1.定期的 毎日	特になし。	周囲に障害物はなく、校庭の状態もよく、周辺の子どもの危険な遊びをしていなかったため特に改善策はない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	支援員は適正に配置され、見守り体制をとれていたため改善策は特になし。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含め、児童全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は死角のないよう分散して各エリアを見ていた。	後ろ向きに歩いている本児に対し、支援員が注意するよう声をかけた。	後ろ向きに歩いている児童がいたから注意するよう声をかける。
1656	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9.おやつ(学童)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45					4	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.道具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	2.基準配置	事故防止マニュアルの作成。	1.定期的 毎日	2.不定期 毎日	2.不定期 毎日	定期的に安全点検を実施。	1.集団活動中・見守りあり	雨上がりで地面が濡れており、靴底に砂がついていて、滑りやすかった。	雨上がりの活動時は注意を払って声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童のトラブルに対応していたため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの児童に声をかけていた。	下校・宿題、遊びの重なる時間帯のため見守りが手薄になっていた。	下校直後の時間帯は、様々な活動があるので全体の見守りに重点を置く。			
1657	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42					4	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手親指指 剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	支援員等の配置は十分であり、ソフト面に改善策なし。	1.定期的 毎日	2.定期的 毎日	12.定期的 毎日	2	当該事故において施設に問題がないため、改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり	当該事故において育成支援の問題がないため、改善策なし。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	お迎え前にトイレに行くよう児童に促しており、職員1名がトイレ入口で見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の全域に目を届くよう、児童の見守りをしていた。	支援員等の見守り体制について問題がないため、改善策なし。				
1658	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32					4	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	事故防止マニュアルの徹底を行う。	1.定期的 毎日	12.3.未実施	1.定期的 毎日	12	専用施設ではないため現状維持。	1.集団活動中・見守りあり	小さな子どもでも危険を予測し、声を掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	足をばたばたはたはたしていたのは確認できなかったが、大きなケガにつながることは予測していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつ準備をしながら、対象児の行動を確認していた。	子ども自らが危険予測ができるよう声を掛ける。				



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1659	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	26								3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	危険な可能性がある場合には注意喚起を徹底する。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施			今回の事故については特に問題はなかったと考える。	1.集団 活動中・見守りあり	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	数箇所に分かれて児童が遊んでいるので、全体に目が届くように支援員が適切な場所にて見守りする。
1660	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	43								5	4	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準 配置	事前に職員間で起こり得る怪我について注意すること。応急手当の確認をすること。		1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	1	校庭や使用する道具に、怪我が起こり得る要因となるものが確認する。	1.集団 活動中・見守りあり	校庭で遊ぶ児童に対して、怪我なくできるように準備運動や注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	2.対象者が対象児の動きを見ていなかった	ほかのグループと関わっていたため。		ボール追いかけているところの児童だけでなく、ボールの無い場所の児童も見守る必要があった。			
1661	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	46								4	2	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	危険な可能性がある場合には注意喚起を徹底する。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施			今回の事故については特に問題はなかったと考える。	1.集団 活動中・見守りあり	児童各々が活動中は、数箇所に分かれて児童が遊んでいるので、全体に目が届くように支援員が適切な場所にて見守りする。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.対象者が対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守り等をしていなかった。		数箇所に分かれて児童が遊んでいるので、全体に目が届くように支援員が適切な場所にて見守りする。		
1662	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	140								8	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準 配置	事故が起きたときのために、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努めた。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施			特になし。	1.集団 活動中・見守りあり	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で、対象児も見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、対象児も見守っていた。	支援員が見守りを行い、注意を配っていたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、支援員が行っていく。

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面		人的面														
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策									
1663	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							4	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	特になし。	4.個人活動中・子どものみ	特になし。	1.いつもの様子がなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	児童が一人でトイレに行った際に事故が発生した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が一人でトイレに行った際に事故が発生した。	普段は利用しない場所を児童が利用する場合は、普段とは異なる事態を想定し、注意を促していく。						
1664	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	7.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	86							8	8	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(閉鎖性・左腕関節部)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準配置	安全管理・危機管理に対する知識を、マニュアルを読み込んで再確認する。	1.定期的 に実施	3.不定期 に実施	2.不定期 に実施	なし。	引き続き安全点検を行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	クラブでの手作りのランチの為に、普段とは保衛の流れが異なっており児童の気持が落ちてきた。日常的には走らないこと、ジャンプしなどの声掛けをしているが、徹底されなかった。	階段は歩くこと、ジャンプしないこと、声掛けの徹底。また、階段の中心にビールを貼り、進行方向に対して右側通行をうながす声かけも同様にしていた。	1.いつもの様子がなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	育成室を見ており、対象児を出たところにある階段を移動中であつた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	育成室を見ており、対象児を出たところにある階段を移動中であつた。	階段を駆け下りる児童がいることを念頭に置き、階段は歩かずに声掛けを徹底していく。					
1665	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							4	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右首骨トウ骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準配置	子どもが遊ぶ中での予測ができていなかった。	うんていの事故報告を職員全員に周知する。	1.定期的 に実施	毎日	2.不定期 に実施	1.定期的 に実施	毎日	うんていの下にはマットを敷いてあり衝撃を緩和させる配慮があったが、事故につながった。	学校と情報共有し、うんていの安全面について検討する。	3.個人活動中・見守りあり	うんていをする際に、指導員に声をかけてから行う習慣がなかった。	休憩を一人ひとりしっかりとるように見守る。	3.いつもの様子がなかった	天気は曇りで比較的過ごしやすかった。鬼ごっこに混ざり遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児は鬼ごっこをしたと見えていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具を使っている児童についていた。	指導員がうんていを始めたことに気がなかった。	運動直後の気配が考慮し、言葉かけとその後の様子に配慮する。
1666	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外・公園等)	8.学童	52							6	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期 に実施	1~2	2.基準配置	遊びに夢中になり、滑り台を走り下りた。	遊具の正しい使い方を指導する。	1.定期的 に実施	3.定期的 に実施	3.定期的 に実施	3.施設内より近隣の公園での事故が多い。	公園の遊具の正しい遊び方を指導する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具を使った鬼ごっこは危険性が伴うものだと気づかずに遊んでいた。今回は低い滑り台からの転落で、油断していたのではないかと推測される。	児童は、追いかけっこに夢中になっていたため、滑り台を降りてしまっていた。	1.いつもの様子がなかった	1.対象児とマンソンの状態(対象児に控っていた)	支援員がすぐ近くで遊んでいたため、すぐさまの間で間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	けがの様子をみて、すぐに児童クラブに連絡してきた。	マラソン大会間近ということもあり、普段よりも高持ちは高持ちはない。	支援員は、一緒に遊んでいても常に児童を危険から守るよう心掛けなければならない。		









No	概要				発生時の施設・事業体制							事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				ソフト面				ハード面				環境面				人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
1679	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	29	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折(全治一か月)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	児童数に応じた配置人数は市の基準を満たしていたが、支援員1名不足。当日は8名の支援員が出席していた。	支援員を基準通りに配置する。	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	施設には不備はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童を含めた4人は園庭を走り回っていた。	児童の様子をよく把握し、事故が発生しそうな状況であれば、声かけ等を行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	他児童と鬼ごっこをして走っていたところ、躓いて転倒し、左手首を地面につき痛めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	転倒した現場は見なかったが、すぐ気が付いて対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時に当該児童の付近にいた支援員1名のみだった。	児童の中で出来事なので、細かな声かけが難しい部分がある。	児童が小グループに分かれて遊んでいる際も、備りなく見守りを実施する。
1680	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	57								4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5基接骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	開始前の練習や、ウォーミングアップが不十分だった。	基準の職員を見守りに配置しているが、具体的な見守り方法に研修を行う。	1.定期的実施	12	3.未実施	12	3.未実施	12	1.集団活動中・見守りあり	普段から、ドッジボールなどの外遊びに参加する子に対しては、ひと声掛けする。怪我にならないように、ボールキャッチングのアドバイスをする。	特に、久しぶりに参加する子には、ボールを渡す際に、コート中央で全体の様子を見ていた。	1.いつもどおりの様子であった	いつも一緒に部屋で遊んでいたため、外遊びに出た。	3.対象児から離れたところで対象児を見ている	ドッジボールをしていたため、コート中央で全体の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々で遊んでいたため、子ども達を見ていた。	当該児童は、久しぶりの参加だったため、慣れた特別ルール設定や経験に応じたグループ分けを配慮が必要であった。	事前の声かけを行ない、目を離さないよう、子どもを見守る。		
1681	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	107								14	20.8歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	5:30の基本保育終了と共に入園から広場に移動したが、広場で活動する人数が多かった。	指導員配置について見直す	1.定期的実施	12	3.未実施	1.定期的実施	広場で遊べる範囲を広げる。	1.集団活動中・見守りあり	子どもが多かったため、子ども同士の衝突もやすかったのではないかと、広場で遊べる範囲を広げる。	1.いつもどおりの様子であった	異年齢の子も遊んでいたことあり、いつもより割合が多かった。	指導員も参加していたことあり、対象児の動きを見つけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	この日は、指導員が少なかったため、最低人数の一人で見つけていた。他の指導員は広場にはいなかった。	適切な人数を見極め、その都度配置を考える。						
1682	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30								4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨(とうこつ)骨折及び右腕尺骨(しゃつこつ)脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	事故当時、利用児童30人に対し、4人の職員が勤務しており、市の基準(児童数20人以上35人以下の場合)を超えている。マニュアルを基に受傷時の対応方法を再確認し、引き続き研修等での技術向上を図る。	特になし	3.未実施	3.未実施	3.未実施	特になし	1.集団活動中・見守りあり	室内での運動活動について再検討し、安全面を踏まえ児童の希望に沿った活動ができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と違う様子があった	2.対象児の動きを見ていなかった	審判としてドッジボールのメンバー全員が揃って位置していた。	建物1階での対応をしていた。	保護者の迎えを待つ時間帯は、児童の疲れがピークであり、注意力の低下等事故が起りやすい。この点を考慮した活動内容の日課の設定が必要である。	17時以降の過ごし方を検討し、比較的穏やかな活動を提案し、落ちついてお迎えを待てるように工夫を図る。						

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1683	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	9.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17								3	2	24.12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準配置	特になし	子どもから目を離さないよう済むように、保育室内での準備をする	2.不定期に実施	3.3.未実施	2.不定期に実施	3.特になし	階段の入り口に簡易な扉などを設置することで、勢いよく駆け上がることを確認しないようにする。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	室内で走ること危険なため、職員が指導致していきことを確認した。	1.いつも通りの様子であった	走って来た児童と別の児童とボールを蹴っていた。	4.対象児の動きを見なかった	おやつ準備のためから目が離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	1階にて保育を行った。ケンカが起き、対応していたため、対象児にぶつかって走って2階に行くのを見なかった。	特になし	おやつ準備中も常に保育室全体を見守ることができ、ケガがなくなることを予想する。
1684	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43								4	2	19.7歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	2.なし	1.基準以上配置	開設から事故がほとんどなかったため、職員の事故予防に対する意識が十分でなかった。	・「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 ・「熱中症予防の普及啓発・注意喚起」の職員への周知 ・ヒヤリのハット作成・KYT(危険予知訓練)の学習	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施	・じゅうたん敷きで靴下をはいて遊んでいたため滑ってしまった ・裸足になるか上履きを履くことを周知	1.集団活動中・見守りあり	・子ども達は環境に慣れ、緊張感が低下し、職員への注意を聞かなくなった。 ・学校の見守り声掛け協力依頼 ・今後KYT(危険予知訓練)を遊びの中に取り入れていく	他校から通学して緊張していたがクラブ活動に慣れてきた。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	・自由遊戯となり見守りで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の児童を見ていた。	人数が多く活動が分散していたため見守りが行けなかった。また、送迎を兼ねていたことからあわただしく動いていた。	できる限り指導に専念できる体制をとる。また、障がいのある子(自閉症)や活発な子どもから、安全に見守れる指導員の人数の確保。			
1685	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	16								4	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指末節骨折及び挫傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	今回の対象児のケガの要因にソフト面に関する要因はないため	1.定期的実施	2.1.定期的実施	2.1.定期的実施	6	トイレの出入り口ドアは開放し、万が一閉じても途中で止まる器具を設置	1.集団活動中・見守りあり	今回の対象児のケガの要因に環境面に関する要因はないため	トイレドア付近にたくさんの子どもが集まっていたため、興味本位で近づき、ドアの間に手を置いてしまった。	1.いつも通りの様子であった	他の子ども、ドアの閉めについて質問を聞いていたため対象児を見なかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	それぞれに担当の部屋の見守りをしていた。	ドアの閉めについて対応した職員は勤務終り後、子どもが帰るまで見守っていたため、危険予知がなかった。	一か所に子どもが多く集まってきた場合は、ほかの先生を呼んで一緒に見るような対応をする。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面		ハード面				環境面		人的面		改善策																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策		教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしてきたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項									
1686	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	22.10歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指の骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	0.5	1.基準以上配置	その他要因・分析・特記事項 ルールでの安全な遊びの再確認	改善策 プレイルームではしゃがみ歩いたり、ルールを子供も職員も再確認しました。	2.不定期実施	2.定期的実施	2.定期的実施	6	今回の対象児のケガの要因に施設や設備に関する要因はないため	1.集団活動中・見守り	その場を見守っていた担当支援員に、プレイルームでもいい遊びの再確認を促した。	1.いつもどおりの様子であった	1.対象児の動きを見ていた	2.対象児の近所で対象児を見ていた	近くで見ていると、対象児の動きを見ていた	2.担当児の動きを見ていなかった	それぞれ、担当の見守りをしていた。	自由そのほかの時間帯でも、子ども自身がその場に適切な行動を判断できなかった。子どもがクラブでの生活を安全に過ごすためのルールの認識が足りなかった	ミーティングで遊びのルールを確認する。安全な遊びのルールを再確認する。安全な遊びのルールを再確認する。(同じスペースの他の遊びの種類、その時の児童数、職員配置人数を考慮して)		
1687	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	12	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	21.9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	左鎖骨骨折	1.遊具等から転落・落下	2.なし	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	指導員は二人、見守りをしていたが、鬼ごっこで子どもたちが分散し、ひとり目が届いていなかった。	子どもたちが公園内で走り回っても、しっかりと見守り、危険回避できるように、視野を広げて見守る。マニュアルも本児童クラブの実情に合ったものを至急作成する。	1.定期的実施 毎日	2.不定期実施	2・3	2.不定期実施	1	子どもたちが公園内で、危険な場所など、個別に遊んでいる中で、鬼ごっこで子どもたちが分散し、ひとり目が届いていなかった。	安全点検を職員全員で、月1回行う。	1.集団活動中・見守り	鬼ごっこの時に、遊具から降りようとして、足が遊具の横の部分に引っかかり、左肩が下に落ちてしまった。	公園に出る前に、注意事項を確認してから遊ぶ。(約束事の確認をする)	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	落ちた遊具から、少し離れたところで、鉄棒や、砂遊びをしながら遊んでいた	2.担当児の動きを見ていなかった	おもにブランコや砂場遊びをしていた。	見守る場所によって、死角がある場所があるので、二人で見守る。対角線上に公認全体が見守る。対角線上に公認全体が見守る。危険な遊具の周りには、ひとりづつ見守る。	立つ位置によって、死角がある場所があるので、二人で見守る。対角線上に公認全体が見守る。対角線上に公認全体が見守る。危険な遊具の周りには、ひとりづつ見守る。
1688	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	21.9歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2	2.基準以上配置	当日、支援員1名が急な欠席で2名になった為。	欠席する時は早め連絡をとり、代わりの支援員を配置する。	1.定期的実施	12	2.不定期実施	30	2.不定期実施	50	段差を分かりやすく、緩やかにする。マットを敷いた。	2.集団活動中・子ども達のみ	支援員の見守り、声掛けが足りなかった。	支援員の見守り、声掛けを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	当日は、外遊びの日で、まだ終わっていない児童に学習を促していた。本人より遅布の要求がなかった。	2.担当児の動きを見ていなかった	外遊びの日で、まだ終わっていない児童に学習を促していた。本人より遅布の要求がなかった。	支援員の見守り、声掛けが足りなかった。	支援員の見守り、声掛けを徹底する。



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状況				ソフト面		ハード面				環境面		人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事者		死亡 死因				負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況		その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策								
1688	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	124	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	12	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施		特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	1.いっぽりのおり様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員は全体の見守りをしていたが、児童が転倒した場面を確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は全体の見守りをしていたが、児童が転倒した場面を確認できなかった。	子ども会以外の児童も多く運動場であり、支援員は全体の見守りをしていたが、児童が転倒した場面を確認できなかった。	運動場利用者が多い場合のスタップの連携、個々への見守りについて、スタップ間で再度確認を行う。		
1689	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19								3		22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第五趾端線離断	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故が起きたときに、事故防止マニュアルの整備ができていた。	策定している危機管理の手引きをもとに、事故防止に努める。	1.定期的実施	1.定期的実施	1.定期的実施		特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	1.いっぽりのおり様子であった	2.対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で、対象児も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	全体の見守りの中で、対象児も見ていた。	支援員が見守りをしている、注意を促していたが事故が起きてしまった。	見守りが必要な場面では、引き続き支援を行っていく。			
1690	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22								4		20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	室内保育で職員が配置に死守していた。	リスクマネジメントの研修を受講した。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	雨天時のため室内にいる児童が集中するが、合同保育中のため別の学童保育もいたため不慣れた環境であった。	雨天時は児童の行動を制限するように指導員を配置する。	雨天時で近くにいた児童が多かったが、普段と変わらない状況であった。	雨天時で多くいたが、普段と変わらない状況であった。	指導員が近いが、ボールを追いかけた交差するときに注意できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が交差するときに注意できなかった。	職員が配置に死守していたが、対応できなかった。	支援員から児童が多く室内にいる状況が明らかになったときに、危険の無い遊びを誘導する。				
1692	平成29年12月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	33								5		19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨折・脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	ミーティングを通して職員が安全への共通意識を持つよう取り組み、当日も適切な人員配置を確保していたが、突発的に事故が起きてしまった。	引き続きミーティングにて共有の徹底を高め、また、適正な人員を配置し遊びを積極的に行うことに加え、安全への意識向上に努める。	1.定期的実施	293	1.定期的実施	24	1.定期的実施	朝礼台の上に乗っていたが、ランダムに落ちてしまったことになった。	物理的に朝礼台に乗れないよう、朝礼台にブルーシートをかき、ランドセル置き場とした。また、新まともスタップもこのことを共有した。	鬼ごっこに夢中になり、朝礼台に乗る約束を忘れて朝礼台に乗ってしまったことが事故につながった。	日頃から約束やルールも伝えていく。	1.いっぽりのおり様子であった	いつも通りの様子であったが、普段やルールを守れなかった。	3.対象児から離れたところで見守っていた	正規職員2名は、全体を目標位置にいて、当該児童がこぼれてきたら、朝礼台に乗ったことに気づいていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	臨時職員1名が至るに当たって、当該児童が横たわって泣いていることに気づいた。	朝礼台に乗った瞬間を目撃している職員が、降りよう注意をすることができなかった。	職員は、子どもは突発的な行動をすること、一瞬で怪我をすることが多いことを常に念頭に置き、保育を行っていく。















No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日												
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面										
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか
1715	平成30年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	59							6	6	16.4歳	1男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1	1.基準以上配置	右肘を捻った時、大きな怪我が生じたような様子が見られ、養護教諭への伝達が遅れたため、怪我が疑われることが生じた時は、大小関係なく、すぐに知らせるようにする。	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	年齢に合わせて飛び降りるゲームボックスの高さを考える。ジャンプをして飛び降りる際は、両足で着地し、体勢が前のめりになった場合は掌を前に着くことを教え、顔や肩などから着地しないように指導していく。深めのマットは着地の時に足元がふらつきやすいため、ねらいによっては通常のマットを使用することも考える。	3.個人活動中・見守りあり	使用する遊具の数を減らし、ゆったりと遊べるように考慮する。	1.いつもの様子であった	本児は同じ遊びをしたことがあったが、怪我は深めのマットを置いていたこともあり、全体で飛び降りてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の近くで危ない使用をしていないか、順番を守れているかなどを見つ、遊戯室内全体の様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具ごとに付き、危ない使用をしていないか、順番を守れているかなど見守っていた。	遊戯室内に用意した遊具それぞれが付き見守ることができたため、改善点はなし。
1716	平成30年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1 1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	69						4	4	18.6歳	1男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷 2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準配置	子ども達に遊び始める前に声を掛ける	1.定期的 に実施	職員1/週 園長1/月	1.定期的 に実施	3	1.定期的 に実施	随時	園庭の表面は、少し湿っていたことと考えると、凍っていたのかもしれない。今後は、園庭の土を確認し、遊び方、遊ぶ範囲等考えていきたい。	1.集団活動中・見守りあり	走って来てボールをけるうが、ボールとの距離が合わず、軸足が滑って転んだ	1.いつもの様子であった	運動遊びが始まる前で、友達といつものにボールを追いかけ走り回っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各クラスで子どもの対応	園庭の状況を職員がよく把握し子ども達に遊び始める前に注意事項など声を掛けるようにする			



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面		ハード面				環境面		人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因					負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策							
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
1717	平成30年3月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1.8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	44		12	15	17	5	5	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘はく離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.集団活動中・見守りあり		3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	以前、年長児がしていた遊びをまねて友だちと遊び始めた	4.対象児の動きを見なかった	他の活発な子どもと一緒に全身を使った活動があり、比較的静かな遊びを好む本児への意識が高かったためではないか	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	危険と思われる所(積み木・滑り台)にいた	本児はいろいろなことに興味関心があるため、好奇心が旺盛で、ちとのかかわりもよく動的・静的な遊びに夢中になって活動する。年長が遊んでいたことを思い出してやってみようと思った。年長がしていた時に危険を感じた。保育士は「危ないからよ」と声をかけた経緯はあるが、このことは本児には知らない。以前も同じ遊びをしており、「跳べた」という達成感があるため危ないという意識はなかったと思われる。			
1718	平成30年3月30日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	31					2	2	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的な実施	1	2.基準配置	マニュアルもあり、園外研修の参加や、園内研修もしている。職員配置にも問題なかった。	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める。	1.定期的な実施	250	1.定期的な実施	250	1.定期的な実施	250	1.集団活動中・見守りあり	夕方、園庭で異年齢児と一緒に遊ぶ中での見守りを行っていた。十分な注意が必要である。	こどもの行動や活動時の危険性を再認識し見守りを十分行う。危険性を予測し、危険回避できるように努める。	1.いつもどおりの様子であった	他児と鬼ごっこをしていていたが、転ぶと両手がつかず、左肘が地面につく。	4.対象児の動きを見なかった	対象児と同じ場面にいたが、対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自由遊びの時間であり、保育士が数人見守り中である。転倒の瞬間には、危機感を高め、声を出して助けを求めた。	夕方のお迎えの時間でも、他多数の職員もいた。保育士が数人見守り中である。転倒の瞬間には、危機感を高め、声を出して助けを求めた。	見守りでこどもの動きを確認でき、範囲内で保育士が密に連携を密に、危機感を高め、事故防止に努めていく。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分 析・特記 事項	改善策		施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分 析・特記 事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分 析・特記 事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分 析・特記 事項	改善策
1719	平成30年3月30日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7 3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11								3	3	14.2歳	1男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置 2.基準以上配置	低いところでも、タイミングによっては骨折する可能性がある(また子どもの中には折れやすい子どもがいるかもしれない等)	体育ベンチの遊び方を決めたり、立ったりしない等。粗大遊びの際には必ず近くに大人がつく。	1.定期的 に実施	4.定期的 に実施	4.定期的 に実施	12	今まで通り、安全点検を実施していく。	3.個人活動中・見守りあり	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分 析・特記 事項	改善策	1.いっ もどお りの様 子であ った	2.対象 児の至 近で対 象児を 見てい た	1.担当 者・対 象児の 動きを 見て(至 近距離 にいた り)		今まで通り、育児担当と遊び担当で見守る。一人ひとりの子どもの動きを予測して見守る。		
1720	平成30年3月30日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11 2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19			7	12				4	2	16.4歳	2女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準以上配置 6	危険が予想される場所では、実習生にその場において安全確認を促す。実習生にも危険な場所であることを伝えておく。		1.定期的 に実施	48	1.定期的 に実施	48	2.不定期 に実施	24	雨上がりで、うんでも滑りやすい状況であった。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの興味や欲求を考慮しながら、保育教諭も安全に遊ぶよう注意をかける。(実習生にも安全な立ち位置を知らせる)	3.いっ もどお りの様 子であ った	3.対象 児から 離れた ところ で対象 児を見 ていた	対象児から離れた場所の子と一緒に遊び、時々うんの方にも目を向けていた。	2.担当 者・対 象児の 動きを 見てい た	他の子と一緒に遊んでいた。	実習生がいる場合、園児はいつもより落ちつきがない(目立たない)状況になり得ることを意識し、落ち着けるように個別に言葉をかけた。危険を予測し他の職員とも連携を密に安全確保に努める。	
1721	平成30年3月30日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14								1	1	15.3歳	1男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	6.その他	2.顔面(口・唇・頬)	口蓋 打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準以上配置 12	再度、職員間で安全対策について確認し、再発防止に努める。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	12	随書となる物はすべて保管して十分な配慮していく。	3.個人活動中・見守りあり	個人の状態を確認しながら保育しているが十分に確認を重視していく。	1.いっ もどお りの様 子であ った	玩具コー ナーで遊 んでいた 時、イ メージが あったよ うで小走 りする。	手にはおもちゃなど何も持っていない状態。小走りしはじめたので声をかけたが、バランスを崩し手をつかず転倒。保育士が支えようとしたが、間に合わなかった。	2.担当 者・対 象児の 動きを 見てい た	他の職員は、別クラスの保育に付いたため、担当職員しか見ていない。	個人の状態を確認しながら保育しているが十分に配慮していく。		
1722	平成30年3月30日	2.認可外	4.地方裁量型認定こども園	9 7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20								2	1	18.6歳	2女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準以上配置 1	常に保育者は移動し、子どもひとりの動きを把握していく。直ちに事故発生防止委員会を開き、事故の解明と予防対策を行う。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	活動内容に応じ、適切なマットを使用する。屋内外の点検と共に、体育用具の点検配置の注意等、園内研修を行う。	1.集団活動中・見守りあり	活動の開始前、子どもたちの意識を高め、活動中も常に子ども一人ひとりに気を配っていく。体操を午前中に行う。	1.いっ もどお りの様 子であ った	今までの体操でも行ったことがある内容なので、自ら取り組んでいた。	補助を必要とする子どものために当該児が転倒した時に、手を差し伸べることが出来なかった。	1.担当 者・対 象児の 動きを 見て(至 近距離 にいた り)	当該児から離れた場所での指導を行った。(体育指導員)	当該児は体育活動があるので、保育者も子ども任せでたまたま、過信していたところがある。	その日の体調、状況によって子どもたちの状態は変化するので、常に予測される動きを想定し、立ち位置を考えていく。



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面														
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項
1727	平成30年3月30日	1.認可	5.幼稚園	3.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	110						9	8	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		6.基準配置	鉄棒をしている園児のそばに職員がいなかった。	教師の位置の再確認をする。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	13	2.不定期 に実施	12	常設の薄いマットの磨耗状態の確認や交換。	年少児の鉄棒遊びの際はマットを敷いていたが、この日は敷いていなかった。	鉄棒の下には必ず厚めのマットを敷く。	朝、雨が降り、園庭がぬかるんでいたので、普段より戸外に出る時間が短かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしていたため、見ていなかった。	一人で前回りかどうききになり、意欲的になっていた。 「そっと着地をすこすこと目指して、マットがない方がそれを実感できるため、マットがない状態であった。	特に3歳児はマットを敷くことを徹底する。
1728	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	4.2.午前中	3.施設敷地外(園外・公園等)	7.異年齢構成	23					2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口内含む)	左上顎中切歯の外傷性歯牙脱臼および歯髄壊死	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準配置	歯の怪我は神経が損傷した場合、解りづらく発見が遅くなる	口腔に関する処置対応を事故防止対応マニュアルに記載する						1.集団活動中・見守り	空間が広く何時もの声掛けで聞かれない場合もあり、より丁寧な遊びのルールや約束事なども伝えるようにする。	なし	1.いつもどおりの様子であった	・前年度から親しんでいたわらべ歌で遊んでおりルールも理解していた。何時もと変わらずに輪の中に入り、手を繋いでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・同じ輪の中に入り、全体を見ていた。児童と向かい位置するにいたが、一瞬の出来事で衝突を回避する事が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4.5歳児を保育していた見なかった。	友だちに近づき過ぎてしまつたことを知らせていた。	遊ぶ前にぶつかってしまつたこと、危険な行為から無事な遊戯を促す。		
1729	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15					2	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	爪甲剥離	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	本児が集中して遊ぶバズルをしていたので、遊びが終わって爪を噛んでいるとは思わなかった。また、保育士には本児の首の手元は視界に入っていなかった。	保育士1人は全体を見守ることを徹底する。		1.定期的 に実施	4	1.定期的 に実施	10	2.不定期 に実施	10	テーブルを窓際に置いて剥離が少なく遊べる環境で遊ぶことができたようにしたが、その際の配慮が足りなかった。	興味のある遊びを増やしていく。	1.いつもどおりの様子であった	窓の方を向いてバズルをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の相手をしていく	本児が楽しめる遊びが限られているので、バズルをもっと安心して遊ばせていく。	よりきめ細やかな配慮や支援が必要であるという認識をもつ。楽しい遊びを増やしていく。		













No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策							
1744	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	6.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	17	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	3	14.2歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	右耳介裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	特になし	1.定期的	12	1.定期的	12	1.定期的	12	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いっぴりのおもちゃがあった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内には、着替えの援助に1名、給食の片づけに1名づついた。	普段の生活の中で、いつの間にか、大丈夫だろうという考えがあった。いつも通りの流れであって、怪我につながる事があるかもしれないとの意識が低かった。	保育士、子どもの動きを再確認し、子どもを測って保育士が動いていく。	
1745	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	7.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	29									5	5	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	3.火傷	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕熱傷第2度(右腕内側)	8.その他	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	・事前に参加する職員全員との話し合いを共通理解した上で、取り進んでいく。・予め担当場所を決めていたもの、参加する職員全員と詳しい打ち合わせが出来なかった。	1.定期的	12	1.定期的	12	1.定期的	12	特になし	1.集団活動中・見守りあり	・普段通りの姿であったが、初めの活動中に活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・担任保育士はクラスの近くについて、状況を見ながら姿勢を見守り、必要に応じて援助をしていた。	・各担当箇所について、対象児の動きを見なかった。	・子どもたちの状況をきちんと把握し、危険のないようにしていき、また職員間で声を掛け合い、状況に合わせようとする。			
1746	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	63	17	14	16	16					8	8	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	1.頭部	頭がい骨骨折	1.遊具からの転落・落下	2.なし	3.未実施	2.基準配置	事故予防マニュアル作成	1.定期的	12	1.定期的	12	3.未実施	1.集団活動中・見守りあり	子どもがどのように遊ぶのか想定しながら、作った遊具ではあるが、子どもの興味・意欲により、こちらが想定していたようなおそびに繋がることがある。その時々、子どもの姿を保育士同士で常に共有し、その都度、遊びを見直し改善していく事を大切にしている。	階段のところに床を張り(木製)、平面にする。各コーナーに落ちやすい遊具を設置する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の一段目を登り、二段目に登ろうとしたが、いっぴりも登っているところから落ちてきたため、違う場所から登ることになった。しかし、登れず一段目に降りたが、体制が崩れた向きで、後ずさりになり、踏み外してしまった。	二段目について、他児に間違っていただけで、本児の動きは見ていなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	他の職員が、通りがあつたが、後ろに下がって落ちてくる瞬間を見て、抱いて対応した。	クラスに分かれて集まる動きになり、全体の子どもたちが動き出した時間帯。保育士も落ち着かない状況であった。	室内遊具には、子どもを守る職員の配置。	



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分折・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分折・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分折・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分折・特記事項	改善策							
1752	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8月 1.朝(始業-午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	4	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	4	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上A歯根折・下口唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	5				36			1.集団活動中・見守り	クラスの子もそれぞれ好きな遊びをしていたので、おもちゃが部屋に広がっていた。おもちゃが部屋に散らばり、床の所々で滑りやすい状況であった。	自由に遊んでいるときでも、おもちゃが部屋に広がりにくく、滑りやすい素材は直ぐに移動させる。	1.いっぽもおの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が走っていたのを一度走らなくなったが、その後、走り出していたハンカチを足踏ませてしまった。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	本児以外の子どもを見ながら走っていたが、一度声をかけた(至近距離にいた)ので様子を見ていた。	本児は日ごろから、部屋で走ってしまう場面が多いので、遊びからのおもちゃの移動も、遊びからおやつへの移行も、おもちゃを片付ける時は全体的に落ち着かなくなる。更に細かい対応が必要である。	
1753	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8月 1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									3	3	17.5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右前頭部裂創・創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	5				37			1.集団活動中・見守り	久しぶりのプール遊びは嬉しかったが、本児の活発な動きも、久しぶりのプール遊びは、いつも以上に細やかな動きに配慮する必要がある。	設置プールの硬さがあるので、あたり所によっては怪我に繋がる事もある。十分な安全管理が必要である。	1.対象児の至近で対象児を見ていた	クラスでプールの事を見ながら、プールの様子を確認していた。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	プールの外から監視していた。本児も確認していた。	プールは自由に動いているので、他の接触は考えない。プールは水の中なので、通常の動きも配慮し、速い動きに配慮する必要がある。		
1754	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8月 夕方(16時頃-夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置				48			1.集団活動中・見守り	小さなレゴブロックと大型レゴブロックコーナーの間隔が近い。走り出してしまう広い空間の動線を区切らないことも興奮する行動につながりやすい。	ホール内スペースから各コーナーの設け方を確認し、動線を安定させていく。	3.いっぽもおの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近で対象児を見ていたが、他にも突発的な動きが多い子を見守り、転倒を防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	ホール入口に保護者を呼んでいた。	子どもへの個別対応をしながら、全体的な子どもの動きを把握する。安全確保は引き続き行う。対象児の隣に突発的な動きに備える。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日								
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面												
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由
1755	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃-夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37						2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	15	2.基準配置	ログハウスの遊び方について、職員間で約束、ルールを作る。保育中は職員間で声を掛け合い、子どもたちの遊びを見守る位置に立ち、叱咤の動きも対応できるようにする。同時に夕保育時の遊び方についてのツールを確認する。	1.定期的 に実施	45	1.定期的 に実施	45	1.定期的 に実施	45-295	園庭内にあるハウスの位置を窓を開けたままの状態で見られるように、ログハウスの向きと位置を移動。死傷部分を開いた状態で固定。	3.個人活動中・見守り	3.個人活動中・見守り	3.個人活動中・見守り	1.いっもどおりの様子であった	2.対象児の動きを見ていた	2.担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	痛みを訴え事務所に行った際、本児から状況を聞き取るのは困難であった。担任から看護婦への連絡時、受傷状況や正確な部位が伝えず緊急性、重症の解明が難しく、手当をしながら経過を観察する対応になった。	職員間で報告、連絡、相談は密に行っていた。職員間でお互いの立ち位置や動きを確認し合い、声かけ合っていた。受傷時は、職員間で情報共有しながら最悪の状況を予測し、本児を観察しながら経過を観察する対応になった。
1756	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	4.2.午前中	3.施設敷地外(園外公園等)	5.4歳児クラス	20						2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	転倒した場合、鎖骨を骨折する可能性があることを再認識する必要がある。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	転びやすい子である為、走る場所等を考慮する。	1.集団活動中・見守り	1.集団活動中・見守り	1.集団活動中・見守り	1.いっもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	すぐ後ろにいたが、転倒を止めるできなかった。	転びやすい児童には、特に注意を十分に見守る必要がある。
1757	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	2.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15						2	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	外部研修にも積極的に参加し、全体に周知する。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	2.不定期 に実施	3.個人活動中・見守り	職員が先に出るようにする。	1.いっもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	保育室から出る時、職員よりも先に本児が庭に出てしまった為、見ていなかった。	担当クラスの子の子どもたちを見守っていたが、見ることができなかった。	職員が先に園庭に出るようになる。			
1758	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59						2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左膝前十字靭帯付着部剥離骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	3	1.基準以上配置	2名の職員で対応していたが、1名の職員は園児のけんかへの対応をしており全体の状況が見えなかった。1名は回避しようとしたが衝突に間に合わなかった。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	3	衝突箇所には、テンプルの練習中と終了時の切り替えを付け替えて、スピードを出して人や物に衝突してしまう危険性を意識して声掛けをする。	1.集団活動中・見守り	1.集団活動中・見守り	1.集団活動中・見守り	1.いっもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当 者・対 象児の 動きを 見てい なかつ た	1名は、1人の園児が走っている事に気付くまで追っていた。衝突し、走り出さず、衝突した際に、衝突した園児のけんかへの対応をしていて、事故にはすぐには気付かなかった。	けんか等の起り、長時間対応に有るが、室内に声を見てもらって、事故にはすぐには気付かなかった。









No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因				ソフト面			ハード面			環境面			人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか		他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策											
1769	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	4	3	15.3歳	1.男児	異年齢でリズム運動を行い、走り始める際に他児の広げた手が本児に当たり、バランスを崩し転倒する。	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上前骨外果骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.定期的実施	1.あり	なし	各クラス1名の正規職員3名プラス臨時職員1名を引き続き配置していく。	1.定期的実施	4	1.定期的実施	50	1.定期的実施	毎日	なし	リズムを行う際、引き、場所を広く安全確保して行う。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢でリズム運動を行った際に、体格差が不足していること。	異年齢リズムの場合、走るリズムが大きいリズムについては年齢別にを行うようにする。また、人数を8人までとする。	1.いつもどおりの様子であった	体調面で問題がなかったためリズム運動に参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児を見守りつつ、一緒にリズム運動を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	正規職員1名は全体の進行、もう1名はピアノ、臨時職員は待機しているチームについていた。	3歳児と5歳児の体格差があるので、事前に配慮すべきであった。	走るリズムや動きが大きいリズムを行うようにする。
1770	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.定期的実施	1.あり	本児が以前数回ケガをしていることを踏まえ、本児の特徴、危険予想を行った上で見守りが必要	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	大雨後の活水流の排水で園にデコボコが生じている。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の地面の状況を確認し、定期的に園庭の整備をしておく。また、遊ぶ時は園庭がデコボコしていることについて子どもにも伝えていく。	本児は以前も金・土曜で類似の事故を起こしている。週後半は体力を考慮し保育内容を検討していく。	いつも通り登園し、体調不良もなかった。その時間は同クラスの子どもたちでバナナ水をおこなっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任はアスレチックの子どもの対応をするため、園庭にいたところ、本児が走り出し、転倒したところを3メートル離れたところから目撃した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	看護師が別の子どもへの対応をしながら、園庭にいたところ、本児が走り出し、転倒したところを3メートル離れたところから目撃した。	過去のケガは金・土曜日の遊び続けた後(1時間後位)の時に起きていた。身体的にも疲れ、体調不良も指摘された。また、可能性が考えられる。また、性格上、度々やり返す傾向があることを考慮し、保育をしていく。	体力づくりを行い、休息の大切さを伝える。また、子どもたちも自分たちで声を掛けていく。			
1771	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	4.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	3									3	3	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	6.その他	1.頭部	急性硬膜外血腫・頭蓋内に達する開放創合併なし	1.遊具等から落下	1.あり	2.不定期実施	1.定期的実施	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.いつもどおりの様子であった	乳児用遊具の側面に登って遊んでいるが、ボリン製の遊具が滑りやすかった	1.集団活動中・見守りあり	乳児用遊具の下にはゴムチップを設置し安全に配慮しているが、今回の事故を受けて、登ったり滑る部分に付け、自由に登れなかった	乳児用遊具の側面に登って遊んでいるが、登る際に足を滑らせようとしていた	滑り台の本来の使い方ではない場合、登る前に保育士に知らせるようにつけておく	元気に園庭の遊具で遊ぶ、滑り台の滑り台の横にある登って遊ぶ遊具は入り口で毎日遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は、トイレに行っていた。本児の目撃したものが出来なかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が落下した時点で、2歳児の担当者が駆けつけたが、0歳児の担当者は驚いて逃げた様子であった。担任は、本児の動きを見ていたが、目を離したままであった	保育中(特設の時間帯)には、席を外すことなし、どうしても離れる時は、数分でも代替え人員を立てる		
1772	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	4.1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38									4	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1.遊具等から落下	1.あり	1.定期的実施	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	3.いつもよりの様子であった(理由を記載)	進級しようとしているため、園庭で遊ぶ機会が多かった	2.対象児の動きを見ていなかった	砂場近くの子どもの対応ができていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応ができていたため、園庭の動きを見ていなかった	担当職員が他の保育士と連携し、付いてもらうように声をかけなかった	固定遊具に必ず保育士が付き、持ち場を離れるときは、職員全体で危険のないよう見守る。							







No	概要				発生の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故時状況				事故誘因		ソフト面		ハード面				環境面		人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・特記事項	改善策									
1781	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13	1	2	3	6	1	6	5	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	10	1.「思い込み」が先走ってしまっ	1.園児が渡っていく時間帯の遊具の使い方を見直す。2.お迎えの対応を1人ずつおこなう。3.小さなことだと思っ	1.定期的実施	1回/日	1.定期的実施	1回/日	1.定期的実施	1回/日	1.普段2歳児が遊具で興味を持ってしまった。2.該当遊具は重くなる可能性がある	1.集団活動中・見守り	お迎え対応、おもらし対応が不足して死傷がきた	職員間での声掛けが必要	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	特に具合悪くなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	お迎えの対応で対象児を見つけた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレやお迎えなどで一時的に人員がなくなったことに対して注意がなかった	一時的に人員が少なくなった場合士での声掛けが足りなかった	一時的に人員が少なくなることで士での声掛けを徹底する
1782	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19						1	1	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1.基準以上配置	朝の涼しいうちに遊ばせたい思いから運番である他職員を待たず、一人体制にもかかわらず子どもたちを園庭に出してしまっ	2人以上の体制で園庭に出ることを徹底する。ブランコや鉄棒等落下する恐れがあると思つ物は職員を配置する。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	46	1.定期的実施	待つことなく乗れるように、ブランコを3基出した	ブランコをそばに職員を配ると、ブランコを外す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児が怪我(すりしめ)を被ったため、日陰に移動し処置をした	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	処置するところに通りかかると、園庭の子たちを守るうとしたその瞬間、落下直後を見つけた	2人以上の体制で園庭に出ること徹底する。ブランコや鉄棒等落下する恐れがあると思つ物は職員を配置する。			
1783	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	37						1	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	職員シフトの見直し、朝の職員配置を努め、事故防止マニュアルの読み合わせの強化。また、園内研修の回数増加や研修内容も事故予防を多く取り入れ、今後、事故が起らないようにする。	勤務シフトの関係で遊戯室での見守り体制が保育士1人だけになってしまった。また、本来は朝パートも遊戯室で見守りを行っていたが、事故当日は障害児に付きっきりになり、4歳児保育室にいた	1.定期的実施	247	1.定期的実施	36	1.定期的実施	247	3歳児保育室の出入り口及び扉は、遊戯室からでは死傷になる部分にミラーを三つ付けて遊戯室の出入り口が目視できるようにする。	勤務シフトの見直しを行うとともに、職員の新規雇用を努め、就業規則に定める勤務時間内で職員配置調整し、遊戯室には必ず2人以上体制にする。	1.集団活動中・見守りあり	勤務シフトの関係で遊戯室での見守り体制が保育士1人だけになってしまった。また、本来は朝パートも遊戯室で見守りを行っていたが、事故当日は障害児に付きっきりになり、4歳児保育室にいた	登園時より元気がなく泣いていた。その後、その支度を済ませ、遊戯室に泣きながら歩いた	2.いつも元気がなかった(理由を記載)	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室にて3・4・5歳児の遊びを見ていたため他の園児への見守りの体制が甘かった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名での見守り体制で遊戯室を走るようになってしまったことにより事故となった。また、保育士1名での見守り体制で遊戯室を走るようになってしまったことにより事故となった。また、保育士1名での見守り体制で遊戯室を走るようになってしまったことにより事故となった。また、保育士1名での見守り体制で遊戯室を走るようになってしまったことにより事故となった。	朝の自由あそびの内容を考えた。職員の見守り位置も確認や事故検証で話合っ。園児たちにも安全に遊ばせる位置に注意を呼びかけた。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面			人的面										
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか
1784	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23							2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.マニュアルの有無	2.事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動き具体的に何をしていたか	他の職員の動き具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1785	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24		16	8				4	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.マニュアルの有無	2.事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動き具体的に何をしていたか	他の職員の動き具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1786	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	6.1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23		8	5	10			3	3	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.マニュアルの有無	2.事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動き具体的に何をしていたか	他の職員の動き具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面		人的面												
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項
1787	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 4.3歳児クラス	28									3	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左転子下骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.マニュアルの有無	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	12	2.不定期 に実施	50	いつも遊んでいる芝生上の活動でも転倒時は危険を伴うことを頭に入れておく。	転倒の仕方については事故につながることを考え行動する。	1.集団活動中・見守りあり	給食遊びをして子どもと距離がたため、接触は不安心を持ってしまった。	活動の切り替え時にも子ども一人ひとりの状況や性格などを考え保育士の役割をしっかりとる。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	休み前であり、気分は高揚していたのか。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	出来あがったのが走り出したのが転倒した瞬間は見えていなかった。	2.担当・対象児の動きを見ていた	4.歳児はテラスにいたがクラス単位で活動していたので、対象児の動きは見ていなかった。	普段から走ったり転んでも大丈夫な場所であったが、子どもも疲れ具合や気持ちは予想しなかった。	個々の子どもを常に把握し、保育士間での連携をしっかりとる。
1788	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 4.3歳児クラス	24									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	鎖骨骨折(左側)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	園庭には芝の部分があるが、今までの場所でも転んでも怪我がなかった。安全に対する意識が足りなかった。園庭おそひ時には、固定遊具の近くにいる職員、全体を把握する職員を配置するが、あそびを始めた直後で安全配慮が足りなかった。	園庭に出る前は、園庭を確認し、子ども達にも安全についての話(走っても良い所、ぶつからないようにするなど)話をする。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	50	園庭整備(芝刈り、除草、地面の凹凸)の必要性を再度確認し合い、実施する。	3人の保育士が子どもと一緒になり、様子を見守っていた。	普段の活動の中で、運動促進を促すあそびを取り入れ身体を行う。	1.いつもどおりの様子であった	元気があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	(対象児を含む)数人の園児の動きに合わせてながら、対象児のやりについていた。	1.担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	残り2人の職員も園庭で保育を行い、全体の動きを見ていた。	普段の活動では走り回ったり、子ども達に安全に話をする話を確認したり、職員間で確認し合う。	遊び始める前に必ず園庭の状況を把握し、子ども達に安全に話をする話を確認したり、職員間で確認し合う。
1789	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	8									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	職員間の役割を確認し未然防止に努める。	職員間の役割を確認し未然防止に努める。	2.不定期 に実施	1.定期的 に実施	2	1.定期的 に実施	環境を整えるため危険箇所の確認。	1.集団活動中・見守りあり	昼食後の過ごし方(室内は走らないこと)の徹底・確認。状況に応じた言葉かけを未然に防ぐ。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	普段は食事終了が早いのだが、完食が他の友達より早かったため、うれしさから高ぶってしまい落ち着かなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	落ち着かない対象児を注意したり、食事が終わっていない子や食が進まない子への対応をしていたが、対象児がバランスを崩した時に手を差しかけた。	2.担当・対象児の動きを見ていた	隣室で、食事の対応をしていなかった。	保育士同士の連携・声かけを強化する。			









No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因		ソフト面		ハード面			環境面		人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策		施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1802	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	11							2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施			24	1.定期的実施	24	1.定期的実施	24	1.定期的実施	24	1.集団活動中・見守りあり	1.その他要因・分析・特記事項	改善策	日常的に順番や場所を競い合っていたクラスの間、すべり台の上へ登るために先頭を競っていた。そのとき左手にはグルミを持っていた。	すべり台の斜面の横では地域の方が見守っていたため、担当職員はすべり台を離れ、すべり台の上へ登るために先頭を競っていた。そのとき左手にはグルミを持っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	別の遊具の子どもがかわっていた。	散歩先の公園から出る場所と向いているということもあり、危機感のない遊び方になった。	遊具の高さや斜度など、5歳児もよくなるかどうかなども考慮して遊び方を確かめ合う。	
1803	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	3	1	3	1			2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		24	1.定期的実施	24	3.未実施	7.その他	15cmの長いすの下には1.5cmの厚さのクッション性のあるマットが敷いてあったが、そこからヒーローの飛び降りたためと考える。	未満児の部屋であったため、いざというときのクッション性のあるマットも敷いてあったが、そこからヒーローの飛び降りたためと考える。	15cmの長いすの下には1.5cmの厚さのクッション性のあるマットが敷いてあったが、そこからヒーローの飛び降りたためと考える。	室内でのヒーロー(特)遊び(椅子からの飛び降り)は禁止にする。	3.いっしょに活動的であった(理由を記載)	他児が長いすから飛び降りたのを見まわすに飛べない。ヒーローになってはかっこよく着地を決めたい気持ちがあった。	4.対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児に関わっていた。	園児に対する職員の数も十分であったと思われ、一人ひとりの動きを十分予想し保育に当たる。				
1804	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47							3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		1.基準以上配置	マニュアルの検討	1-2	1.定期的実施	1.定期的実施		1.集団活動中・見守りあり	1.その他要因・分析・特記事項	改善策	外遊びに行ったときに1人で遊んでいて、立ったままの状態でジャンプしながら回転した。	1.いっしょの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団活動中に他児で砂場作りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内から外へ出す子どもを見守る。一人部屋に残った子どもも含めて見ていた。	室内から戸外へ出るときの危険個所を認識した後の改善を即断すること。戸外でも同様。	室内から戸外へ出るときの危険個所を認識した後の改善を即断すること。戸外でも同様。		





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故原因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニキュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分 析・特記 事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分 析・特記 事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分 析・特記 事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分 析・特記 事項	改善策
1812	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	3								3	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指骨折	3.子ども同士との衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	園児が落ちて着いて過ごせるように、職員の間わりを考える。		2.不定期に実施	2.定期的に実施	12	12	12	12	保育室の環境構成を工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	園児が集める時間を考える。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児に話をしながら対象児の動きを見ていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	他の園児と関わっていたので見ていなかった。	その他	日々園児の様子を把握し、職員同士が声をかけあいながら園児を見守り、必要ときは個別に対応する。	
1813	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯脱臼	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	10-12	園外保育であったため、必要保育士数を多く配置する。	定期的な研修や日帰りの声かけによる状況でも事故を予防しようという全職員への意識づけ。また、園内保育と園外保育との職員配置を見直す必要がある。		1.定期的に実施	12	12	12	12	特になし	7.その他	散歩コースの事故現場舗装が非常に悪く子どもが容易に転倒する状態であった。	市に道路舗装整備要望を出し、7月末に工事着工し、8月上旬に道路の舗装が完了。散歩コースを見直す必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	先頭を歩かせる園児の横断歩道の横断歩道を誘導していたが、道路舗装の悪さに気が付かず、通行車両に気をつけることを優先して歩かされた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	最後尾で園児の横断歩道の状況を確認していた。	一人ひとりの園児の歩容を確認する。また、そうでない場合は、職員同士声をかけ、ケガのないように歩かせるよう必要がある。	
1814	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	29								3	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第2,3,4中足骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	当日は出席園児29名、2名の保育士、1名の外部講師がおり、保育士定数は適正であったが、様子の確認が不十分で、痛いと叫ぶとすぐに病院へ行く決断をするべきだった。	事故を振り返り分析を行い、職員(外部講師を含む)に対し再発防止のための安全管理に係る共通認識を持つよう周知徹底をする。担任はクラス全体、一人一人の発達の様子や性格を十分に把握し、外部講師にも伝え、連携を図る。		1.定期的に実施	6	12	12	12	着地の場所以は安全のため、クッション性のある柔らかいマットを敷いていた。押さたり、あわてさせたりするものもなく、本児のタイミングによって飛び降りていた。施設・設備面については、支障がなかったと考える。	着地がよくなり安全にできるようにマットを厚くする。使用する運動器具を変更する。	1.集団活動中・見守りあり	並んで待っている時、実施中、落ちて取り組むよう声を掛けをする。	当日の体操教室の内容を十分に把握し、補助は指差し補助の仕方をする。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、自分の順番が来たのを待っていた	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外部講師は、鉄棒に構って他名は順番待ちで園児の見守りを行っていた。	全てにおいて園児の行動に予測を立て、保育士の位置、配置などを見直しを行う。安全かつ的確な補助の仕方を事前にきちんと指導を受け、補助にあたる。また体操教室の実施内容についても見直しを図る。
1815	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	2.午前中	2.施設敷地外(園外)	7.異年齢構成	29								5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手)	右上腕骨骨折	1.遊具等から	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	遊具使用時の危険性、補助の仕方を再度確認し、園児にも安全な遊具使用の知識を身に付けるよう指導した。		1.定期的に実施	1	1	1	1	3.個人活動中・見守りあり	遊具の使い方や、危険性を事前に確認する。	園児に対して遊具の使い方や、危険性を事前に確認する。	1.いつもどおりの様子であった	日頃からよく遊んでいる遊具であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていた	4歳児担任は、本児が、ジャングルリングで遊んでいる状態は確認していた	クラスには2人の担当職員がいるので、遊具の補助については職員は本児の様子を把握し、必要に応じて補助を行う。			





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳	4歳		5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策		施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策			
1819	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5 1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26		8	11	7				2	2					17.5歳												2.女児															1.屋外活動中	1.負傷
1820	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5 1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	29						2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	適切な人員配置を今後も行っていく。	1.定期的実施	2	1.定期的実施	53	53	平坦な場所のため、特に問題は無い。	1.集団活動中・見守りあり	体幹を鍛えるには至っていない。	1.いっもどおりの様子であった	周りに注意が行き、前を歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	前を見て歩くことを全体に声かけていた。対象児が転倒する瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児より先に歩いている子どもたちを見たためその瞬間は見ていなかった。		散歩に出かける前に歩き方について子どもたちに話をしている。					
1821	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	4 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24						4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指末節骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	職員体制については、5歳児24名に対し保育士4名の配置であり、配置基準は満たしていたが、今後とも職員に対して継続して行ってもらう。練習開始前には、ばちの持ち方など指導しているが、個別の指導が不足していたように思われる。	1.定期的実施				1.集団活動中・見守りあり	保育士が危険を察知できるような見守りを怠らないように配慮する。	1.いっもどおりの様子であった	和太鼓に参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児の前向きに、全体を指導していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該園にも職員を配置していたが、このときでなく、都度の指導を怠らなければならなかった。	子どもたち自身が、ばちの持ち方を教えるよう、また持ち方と違う扱いが怪我に繋がる可能性があることを、自分でも認識できるように、日頃から指導していく。保育士が危険を察知できるような見守りを怠らなければならなかった。									
1822	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	2 2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	6	9					4	4	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾末節骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	マニュアルは整備していたが、保育活動の移行時に注意が足りなかった。	再発することの無いように、会議などで職員の安全意識を高めていく。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	1	1.定期的実施		1.その他	給食準備という流れに追われ、子ども一人ひとりに気づけなかった。	それぞれの保育士の留意点を、職員共有する。	1.いっもどおりの様子であった	給食準備を待っている間、部屋の中で動きまわっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	机を調乳室から出し、準備をする際に、準備が完了した時点で調乳室に入った本児に気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のトイレ誘導や手洗いや準備が完了した時点で、下を閉めたままにしておいた。	準備をする少しの時間だからと、下を閉めたままにしておいた。	一人一人の職員が座って待つようにする。			

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																		
						人数	異年齢構成の場合の内訳					死亡 死因						負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策											
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																													5歳以上	学童	その他								
1823	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	4.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10						4	4	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面せつ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	12	1歳児クラスは特に新入園児も多く、また月齢も低いため、クラス内でも不安定な雰囲気の時期的であった。保育士1人加配でも、まだ余裕はなかったように感じる。	事故予防に関する研修・講習会をより多くの職員が意欲的に受け、知識を身につける。	環境の見直しと、事故についての職員周知。また、子どもへの安全な事をくり返していく。	環境の安全点検	297	1.定期的実施	297	1.定期的実施	297	1.定期的実施	297	転倒した際に観葉植物を置いている木製の囲いがぶつかり、けがをしている。段差でパラスを崩しやすいため、転倒の危険性が考えられる場所の近くに障害物を配置してしまっていた。	環境の見直しと、事故についての職員周知。また、子どもへの安全な事をくり返していく。	4.個人活動中・子どものみ	本児は職員も同様に室内の子どもの動きを見ながら、着替えの介助をしていた。対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもが座って過剰な声を出して、興味や声かけを待たない。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	新しいお部屋で、たくさん色んな場所へ移動して、見つけた(理由を記載)	2.対象児の動きを見ていた	1.担当職員が対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も同様に室内の子どもの動きを見ながら、着替えの介助をしていた。事後の片付け等を行っていたため、手差しの危険性がなかった。	対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員同士の至りや立ち位置などを確認し、職員間の連携をとり保育を行う。
1824	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32					3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.基準以上配置	3	園庭で活動している際の保育士の立ち位置の再検討をする。	園庭で活動している際の保育士の立ち位置の再検討をする。	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.集団活動中・見守り	担任同士で、チェックの仕方が曖昧にならないよう留意する	担任同士で、チェックの仕方が曖昧にならないよう留意する	1.いつもどおりの子であった	4.対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1.担当職員が対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	走っているのを見ていた。ドーンという音がしたため、見ると転倒していた。	子どもの動きを常に予想し、職員間で遊びのルールを確認し合う。								
1825	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14					1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期実施	1.基準以上配置	1	怪我をした園児のすぐ側に保育士が付いているが、極小であるが、小石が落ちていた。	出来るだけ、職員が側に付いて活動する。	1.定期的実施	17	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.集団活動中・見守り	もともと手入れをしていく。	複数の職員で見守っていた。	出来るだけ、複数の職員が側に付いて活動する。	1.いつもどおりの子であった	3.対象児の動きを見ていた	活動(集団遊び)中、担任がすぐ側に付いていなかったため、対象児の動きを見ていた	2.担当職員が対象児の動きを見ていた	担任以外の職員は、対象児から離れた位置で見守っていた。	対象児のクラスは、担任名で保育していた。	出来るかぎり複数の職員で保育していく。					
1826	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19					3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腕部)	左肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	14	運動会前で毎日かけた、リレーの練習をして、両手を付いて転ぶ事が多かったため肩が痛くなった。転ぶとは思わなかった。	保育時での子どもの動きを想定し、対応を考慮して、職員が責任を担って、ケース会議で職員全員に周知する。	運動会前の子どもの動きを想定していたが、転倒して肩を直接打つてしまった。	1.定期的実施	297	1.定期的実施	297	1.定期的実施	297	1.集団活動中・見守り	保育者との安全確認や配慮を周知する。児童の動きを予測し、保育者による設定保育中の言葉かけや配慮の必要性を共有する。	4.5歳児には保育教室及び戸外遊び等で俊敏性、対応性を養うための指導を行っているが、児童への配慮、動きの予測を誤った点が偶然重なったと思われる。	遊びでリレーの練習をした時に、バトンを受け取った時転倒し左肩を打った。	1.いつもどおりの子であった	2.対象児の動きを見ていた	園庭でリレーの練習をした時に、バトンを受け取った時転倒し左肩を打った。	1.担当職員が対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育者は運動場の3カ所の位置を見守っていた。	職員は常日頃走る練習をする前には転んだり、ぶつかる事を周知しているが、さらに予想し見通しを立てていく。					

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日									
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制										発生時状況	事故の転帰	事故原因	ソフト面																							
						人数	異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事者	年齢	性別				特記事項	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	施設的安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	環境面		人的面												
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上																学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設的安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況
1827	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	1.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	4	4	7	5			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	2.基準配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設的安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策
1828	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	13						1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	職員間でのようにすれば事故を防げるか話し合う。		施設的安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1829	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20						2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第5指基節骨骨折	3.子どもの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	定期的に、研修を行う		施設的安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1830	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42	12	14	16			4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左膝骨遠位端剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故当時、土曜の夕方まで医療機関が開いていた事、本児の歩行に違和感がない等の理由で当日受診をしない等、保護者から依頼される形で月曜日に受診した。素人判断ではなく、負傷した場合は必ず受診をすることを徹底していなかった。	研修を踏まえ、職員会議等で再度、周知徹底を行う。		施設的安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策
1831	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21						1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	事故予防に関する研修を定期的に行い、事故の状況・対策を全員で共有する		施設的安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1832	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	29						3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	遊びを規制する部分ではなかったが、慎重派の本児にとってはやっとなった場所であった。当日も自覚しながら保育士に見せていた。危険を予測できず側にいたことが要因かと思われる。	子どもにとっては、魅力のある場所であるが、使用できないことを園児・職員共に確認する。		施設的安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策









No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面		ハード面				環境面		人的面																
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策							
1843	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	7						2	14.2歳	1.男児	欠けた歯は虫歯ではないかの医師の見解。	2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準配置	2.2	部室には7名の子どもの保育士で保育していたが、配置人数的には足りていたが、より、具体的に事故発生時の時間や活動内容を、職員間で共通理解を深めていきたい。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	2.不定期 に実施	毎日	子ども達が過ごす環境として、危険なものは置かれていない状況であった。しかし、まさしく前時に下にあるテーブルが視界に入らないうちに想定されるので、子どもと保育士の位置関係を改めていく。	慣れた部屋であったが、別室に行くことが対象児にとっては嬉しく、高揚してしまいがちで、子どもと保育士の位置関係を改めていく。	慣れている部屋であっても、活動として危険なものは置かれていない状況であった。しかし、まさしく前時に下にあるテーブルが視界に入らないうちに想定されるので、子どもと保育士の位置関係を改めていく。	絵本を見終わり、別の部屋へ移動しようとしたところ、勢いよく動き始めたテーブルに顔をぶつけた。	1.いっもどおりの様子であった	2.対象児の近距離で対象児を見ていた	素早く勢いがあがり、止めきれなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒に子ども達についていたが、早くあがり、止めきれなかった。	別室に行くという事で、対象児も高揚してしまっていたが、振り向きながら走り出す勢いが止まらなかった。	1人ずつ名前を呼ぶなどし、注意を促すようにする。		
1844	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	64	9	11	10	14	14	6	9	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	とう骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準配置	1	危機管理マニュアルは整備しており、職員の対応はマニュアルに沿って行われていた。薄暮保育中での事故であったが、以上児はホールと3歳児の保育室を開放していた。勤務体制としては以上児34名に、3名の保育士と2歳児5名に、職員1名が対応していた。配置基準は満たしていた。以上児はホールでダイナミックに遊んでいたのに対し、2歳児が会場で遊ぶのは危険であり、また全体を保育士が把握出来ていなかった。	1.定期的 に実施	毎朝	1.定期的 に実施	毎朝	1.定期的 に実施	6	特になし安全に設置されていると思います	1.集団活動中・見守り	カラー種遊ぶ際は、必ずマット等を敷く等の配慮をする。	カラー種遊ぶ際は、必ずマット等を敷く等の配慮をする。	積み木に座っていた。本児は座っていたが、カラー種木から降りたことでバランスが不安定になり、後ろに転倒する。	1.いっもどおりの様子であった	2.対象児の近距離で対象児を見ていた	積み木に座っていた。本児は座っていたが、カラー種木から降りたことでバランスが不安定になり、後ろに転倒する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じスペースには3名保育士がいた。カラー種木には2名保育士がいた。	カラー種木に乗って安定になりやすいため、保育士が気づいていなかった。	様々な状況を考え、そらばにできるような対応を職員間で話し合い、皆で全きるようになっていく。







No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面													
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策						
1853	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	0歳 1	1歳 4	2歳 7	3歳 5	4歳 9	5歳以上	6	6	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕外顆骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準 配置	今後職員間で報告や検討を重ね、安全保育について研鑽を積む。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	2	12	これまで以上に安全面を点検を行う。	1.集団 活動中・見守りあり	延長保育の使用や器具を考へながら安全保育に努める。	1.いっ もどおりの 様子であ った	3.対象 児から離 れたとこ ろで対象 児を見て いた	延長保 育を行っ た方につ いて園児 に話をし 全体を見 守った。	1.担当 者・対象 児の動き を見ていた(至 近距離に いた)	危険な遊 び方をす る子へ声 掛けをし て気づか せていた 。他児に 声を掛け ている時 に本児が 積み木に 上がって しまい、 声掛け のタイミ ングがな くなった。	職員間の 連携や立 ち位置を 見直し、 安全保 育に努め る。		
1854	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	92	8	20	15	18	15	16	26	20	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位骨幹部骨折・左橈骨頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	1.基準 以上配置	異年齢での合同の保育時には異年齢児の担任同士の間で連携を取りながら、園児の活動状況をより深く把握する。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	12	施設、遊具の点検を行っているが、園児が遊具等の思いがけない方をするため、正しい使い方を常に園児と共に確認していくようにする。	1.集団 活動中・見守りあり	園児の突発的な行動に対処できるような保育者間で連携し全体を把握しながら保育する。	3.いっ もどより 活発的で あった(理 由を記載)	3.対象 児から離 れたとこ ろで対象 児を見て いた	1.担当 者・対象 児の動き を見ていた(至 近距離に いた)	園児の家 庭環境、 成育歴、 性格、そ の日の精 神状態が 影響する と思われる。	園児の家 庭環境や 精神状態 を理解し 、個々に 関わりな が安全に 遊ばせる よう配慮 する。			
1855	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	10.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60		17	21		22		6	6	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準 配置	今後職員間で報告や検討を重ね、安全保育について研鑽を積む。	1.定期的 に実施	12	2	12	これまで以上に安全面を点検を行う。	1.集団 活動中・見守りあり	保育の体制や使用する遊具を考へながら安全保育に努める。	1.いっ もどおりの 様子であ った	3.対象 児から離 れたとこ ろで対象 児を見て いた	外遊びを 行うとき に遊び方 について 園児に話 をし、全 体を見守 った。	2.担当 者・対象 児の動き を見てい なかつた	それぞれ の担任児 童の様子 を見ていた が衝突を 回避でき なかつた。	職員間の 連携や立 ち位置を 見直し、 また、使 用する遊 具も考慮 し、安全 保育に努 める。			
1856	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	8							2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折、左橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	マニュアル通り、マットを敷いていて、職員配置も適正であった。	1.定期的 に実施	3	1回/週	1.定期的 に実施	1回/日	この遊具で飛び降りをする時は、マットを用意していたので、適切であったと言える。従来の対応を継続する。	3.個人 活動中・見守りあり	登園して間もなくというこもあり、身体がまだ固くなかった。	かけっこや鬼ごっこなど十分身体を動かしてからの飛び降り(飛び)に比べ、飛び降りる際の慣性で、マットが飛び降りる瞬間にパランスを崩したため合わなかった。	1.いっ もどおりの 様子であ った	本児は、普段あまり飛び降りなどをする事がないが、高いところから飛び降りる事への慣れが、飛び降りる際の慣性で、マットが飛び降りる瞬間にパランスを崩したため合わなかった。	1.担当 者・対象 児の動き を見ていた(至 近距離に いた)	園庭で他 児と関わ っていた。	飛び降り の危険を しっかりと 把握し、 常にそば にいて、 手を差し 伸べてお くなど、 叫喊でき る所にお るべきであ った。		
1857	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25		8	7		10		3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期 に実施	2.基準 配置	朝の時間は遅出勤の職員もいて手薄である。	2.不定期 に実施	1	12	2.不定期 に実施	3	園庭を定期的に整備しても地面とマットとの間に段差が生じまう。	1.集団 活動中・見守りあり	マットを 撤去した。	1.いっ もどおりの 様子であ った	普段と変 わずよこ 動きを回 っていた。	2.対象 児の至 近距離に いた	近くの遊 具で遊ん だ園児が 少し離れ たところ で対象児 を見ていた。	1.担当 者・対象 児の動き を見ていた(至 近距離に いた)	他のクラ スの園児 を見ていた ら対象児 が転び、 大きな音 を聞いた。	登園時の 受け入れ 等から園 児が目を 離れるこ ともある。	受け入れ 時の保 護者との 話は手短 に済ませ る。





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析														掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面			人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		玩具の安全点検 実施頻度【回/年】		その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策					
1863	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕モントテジヤ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準 以上配置	マン ユア ルの 理 解 度 に ば ら つ き が 見 ら れ た	実際に遊具を使いながらの 実技研修を月1回程度 職員全体の理解度を 上げる	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	52	1.定期的 に実施	2	本児の体格の高さは合っていたが、安全マットが設置されていなかった	鉄棒下 に安全 マット を設 置す る	1.集 団 中・ 見 守 り	子どもと 共に再 確認 する 基礎 体力 を付 ける ため、 保育 内容 の見 直し を行 う	通常職員 の援助 により 前ま わりを 行っ てい たが、 くり 返し 行っ てい たこ とが あり、 援助 が不 十分 であ った こと が、 1.い つ も ど の よ う な こ と が あ っ た	4.対象 児の 動き を見 てい な か っ た	(具体的 内容 記載 欄) 他児 の援 助に 目を 離し てし ま つた こと が、 他児 の援 助中 でも 声掛 けを しな か っ た	2.担 当 者・ 対 象 児 の 動 き を 見 て い な か っ た	他の遊 具を 準備 する ため 、担 当 職 員 に 声 を か け た	事前準備 が不 十分 であ った こと が、 他児 の援 助中 でも 声掛 けを しな か っ た	遊具の準備 は事前 に行 うこ とを 得ず 、そ の場 を離 れる 時は、 担任 外の 職員 にも 声掛 けを しな か っ た	遊具の準備 は事前 に行 うこ とを 得ず 、そ の場 を離 れる 時は、 担任 外の 職員 にも 声掛 けを しな か っ た
1863	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8月 7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	6歳	5歳	9歳					2	2	16.4歳	2.女児		6.水遊び・プール活動中	2.死亡				1.あり	1.定期的 に実施	2.基準 以上配置	プ ール 活 動 に お い て 保 育 指 導 を す る 時 は 監 視 員 を 別 に 配 置 す る。 クラ ス 別 に 活 動 し 保 育 者 の 保 育 範 疇 を 明 確 に す る。	プール活動において保育指導をする 時は監視員を別に配置する。 クラス別に活動し保育者の 保育範囲を明確にする。	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	今後は、適切な水深、水温 管理とともに、プールの 大きさ、人員の配置など を考慮し監視員が目の届 き、すぐに対応できる 保育環境を維持する。	1.集 団 中・ 見 守 り	家庭連絡 票には 睡眠、 食事 良好、 熱も 平熱 でプ ール 遊び 可、 家 庭で 咳が あっ た。 午前 中の 活動 (散 歩、 プ ール )は い つ も ど の よ う な こ と が あ っ た。 入眠 時に 少 し 咳が あ っ た。 午後 から の起 床後、 おや つを プ ール に 入 る。	1.い つ も ど の よ う な こ と が あ っ た	2.対 象 児 の 動 き を 見 て い な か っ た	プ ール 内 に て 子 ど も を 見 な が ら、 入っ てく る子 を受 け入 れた	2.担 当 者・ 対 象 児 の 動 き を 見 て い な か っ た	室内に てお やつ の 援 助・ 片 付 け。	本児の 日の 様子 を把 握し 、任 務に 付 き 添 え て い な か っ た。	担任が 保育 指導 役と し、 別 の職 員を 監視 役と して 配 置 す る。 配置 につ いて はプ ール 内 で 事 故 が あ っ た こ と を 発 見 し て 早 く に 対 応 す る 位 置 と す る。			
1864	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1								3	2	17.5歳	2.女児	なし	8.その他	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕下部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準 以上配置	他園、当園で発生した 事故を職員で共有し リスク意識を高める ため	1.定期的 に実施	50	1.定期的 に実施	50	1.定期的 に実施	100	ヒヤリマップを作成する。 施設設備の定期的な 点検を怠らないように する。	保育士は、対象児が 補食に使うテーブルを 拭いたが、明日使用す るテーブルが、明日使 用するテーブルが、明 日使用するテーブルが 、子どもから目を離 す時間を最小限にす ることを職員会議で 確認した。	明日の保育、あるいは 時間外保育中に用意 する物品を、保育中 に用意しないこと、日 中不在の保育従事者 にみても、理由を記 載した。	3.い つ も ど の よ う な こ と が あ っ た	V字バ ランス がで きな いこ とを 、日 中不 在の 保 育 従 事 者 に み て も 、 理 由 を 記 載 し た。	4.対 象 児 の 動 き を 見 て い な か っ た	対象児 から 離れ て(別 室に 入 り)、 補 食に 必要 な物 品を 用意 して いた	2.担 当 者・ 対 象 児 の 動 き を 見 て い な か っ た	玩具の 整理 、清 潔を 行っ た。	保育士 は、 対象 児が 年長 児に あ っ た こ と 、 目 が 少 な い 日 頃 か ら 危 険な 遊 具を 取り 除 くこ とを 、こ のこ とを 、職 員 会 議 で 確 認 し た。			





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因				ソフト面				ハード面				環境面			人的面												
					人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策									
						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																												5歳以上	学童	その他						
1873	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	9.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	22							2	2	17.5歳	2.女児	H29.4月より、カウプ指致・肥満度共に1.8を超え、肥満傾向で経過観察をしていたが改善なく、9月に保護者へ肥満気味である旨伝えしていた。	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕橈骨尺骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1~	1.基準以上配置	引き続き十分な職員配置及び事故予防対策を実施していく。	1.定期的 に実施	2~	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	引き続き安全点検を実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	引き続き見守りを実施していく。	1.いつもの様子であった	普段通りに登園し、友達と遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は少し離れたところで、他児と虫捕りをしていました。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他クラス担任が近くに来て、転んだこととすぐ気づいた。	職員は全体を見回しながら、安全面での配慮を促す(手に物を持って走るときには気を付けてもらうように声をかけていく)。			
1874	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	10.8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	31							2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	特になし	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	ホールを少人数でゆったり遊べた分、勢いがついたらと考えられる。	特になし	3.個人活動中・見守りあり	新しい技(動き)に挑戦していた。	挑戦する気持ちを受け止めて、その日の午前中に他児が褒められていた動き(フラップを持って活動的であった(理由を記載))	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	運動会前で、意欲的にフラップを使っている動きに取組んでいた。特に、その日に他児が褒められていた動き(フラップを持って活動的であった(理由を記載))	2.対象児の動きを見ていた	ホールの中で、保育士1名、子ども4名を確保し、対象児の動きをよく見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室(5歳児保育室)で他の子ども27名の保育を行っていた。	行事前など張り切っている時は、普段以上の勢いがつくことを想定して活動を選んだり見守っていく。					
1875	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	7.8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	2	1	4	2			3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第一趾中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準配置	対象児の行動に対する対応(言葉かけ)ができていなかった。	事故後対応策会議を行い、再発防止に努める。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1回/週	1.定期的 に実施	1回/週	なし	今回、施設内の遊具や玩具は事故につながっていないが、安全点検は継続。	1.集団活動中・見守りあり	夕補充終了後、遊びに入らずスペースを走っていた。	保育士がそれぞれ好きな遊びに誘うなどの配慮が必要。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	室内にある玩具ではなかった。段差なしの保育室で転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.対象児の動きを見ていなかった	複数児の降園があり、保育士は降園時に記録をしながら対象児を見ていた。	他児の動きを見ていた。	降園時間は保育士も書き出し、子どもも間に書類に記載する。	
1876	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	5.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	26							6	5	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	1.基準以上配置	マニュアルの中に子ども達が安全な場を遊ぶ場についての記載が詳細に記されていないなかった。	子ども達の遊び場については、マニュアルも、日々の会議等を通して、職員に周知していく。	1.定期的 に実施	樹木の根がはまっている場所を走っていたため	公園の樹木の根なので、撤去は出来ない。	1.集団活動中・見守りあり	子どもが不安定な場所を走っているのに、保育士が止められなかった。	足元が不安定な場所はないようにする。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の近くには、まがさが根につまづき転倒するとは思わず、本児が転倒する所は見なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子ども達の行動範囲が広がったが、他の職員は、4名は固まっていて、1名は怪我をした本児と同じ場所だった。	当日、子ども達が遊ぶ範囲が広がっていた。又、足元が不安定な場所を走っている保育士が止めた。保育士の危機管理が薄かった。	副園長、看護師と公園に行き、現場の状況を把握した。園長、副園長、担任、看護師と緊急会議を行い、子ども達の遊ぶ範囲の今回の場所が多いため、走り回って遊ぶことを禁止した。後日職員会議で周知した。					





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況					事故状況					事故発生の要因分析															掲載更新年月日								
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面													
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
1881	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	10月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	24	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	垂脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	本児は好奇心旺盛でやりたいことに対して、ルールや危険を考えずにすぐ行動に移してしまふ。本児のこのような特性を捉え、更に注意して付くべきであった。	すくすく児とのジャングルの遊び方を考え、使用先も安全に遊べるようにしていき。また全体でもジャングルでの約束を再度確認する。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	ジャングルジムに破損や水濡れ等はなくハード面の不備はない。	今後も引き続き使用前には安全を確認して使用する。	1.集団 活動中・見守り	障がい児も本児もジャングルジムから飛び降りてはいけないうルールを来ていなかった。また担当も障がい児に対してしっかりとルールを伝え防くべきであった。	固定遊具の使い方を再度全職員で確認し、使用方法の周知徹底を図る。子どもも再度伝えジャングルのみならず遊具で安全に遊ぶよう。	1.いっぽんのお様子であった	本児は好奇心旺盛であり、障がい児が行っていた動きを真似してしまふ。	担当はまさか本児が飛び降りてくると思っていなかった。その点に甘さがあった。		それぞれ固定遊具について、小人数だが集団遊びのルールを守っていた。	ジャングルジムから飛び降りてはいけないうルールだったが、障がい児で担当が目の前で許さず、それを本児が降ってきたことには驚き、この子でこの子でこの子は1対1だといふことはない。行動を止める前に止めてあげなければならなかった。	「庭の使い方も手紙をもも大人もルールを理し、大人は同じに保育する。庭には子どもがいないので大人も子どもが1対1だといふことはない。	
1882	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	10月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14		2	5	7				4	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼 歯肉の挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4-5	1.基準以上配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	5-6	1.定期的 に実施	12.不定期に実施	5-6	特に特記事項なし	特に特記事項なし	1.集団 活動中・見守り	子ども達の動きの多い時間帯にいても状況を把握できなかつた。危険回避できるよう職員間で連携をとり合う。	スキップのように跳びながら歩いていた。普段からそのような動きが多かった。	2.対象児の近距離で見守っていた	本児から2-3mの距離において、視野に入れた見守りしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児から4-5メートル以内の距離にいた。	普段から飛び跳ねるような動きをすることや体幹を認識できなかった。腕の行動を予測できなかった。	さらに子ども一人ひとりの発達状況の把握に努める。	
1883	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11月 2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	1.定期的 に実施	2.基準配置	雲梯遊びは久しぶりだったので、遊ぶ前に子ども職員でルールを確認すべきであった。	固定遊具等で遊ぶ場合の事故予防について、項目を具体化し、定期的に注意喚起を行っていく。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	雲梯下の地面のくぼみもなく、マットを敷いていて安全面については問題ないと思われる。引き続きマットの敷忘れや雲梯遊び時の注意事項を守っていく。	保護マットの準備、くぼみ等の施設面では問題ないと思われる。	1.集団 活動中・見守り	雲梯遊びの確認事項をまもりにくいや身体を動かす中で身体バランスが取れる様に働きかける。	身体バランス機能には、個人差があることを踏まえて、対応する。	久しぶりの雲梯であったが、本児は参加する。日頃より、こどもが出来るように、途中で降りたが、この日も同じ姿であった。	2.対象児の近距離で見守っていた	雲梯に並んだ3人を見ていた。一人が雲梯を降りたらもう一人がスタートする様に目を離さずついていった。着地の時、尿もちをつき、右に倒れそうだったので、手を差し出したが、間に合わず、本児の手をついてしまったため受傷する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	雲梯は担当職員に任せ、その他、遊具以外の遊具の全体の様子が見えなかった。そのため、事故の様子はわからない。	環境面は整っており、一人づつ、目で確認していたので、状況が良かった。引き続き目を良くしていく。				

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面		人的面																						
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策													
1884	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	2	2	15.3歳	2.女児					2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2~5	2.基準配置	発達成長段階で、負ぶわれたことで、自分の力で背中にすっかつたり、降りたりする行動が十分な年齢である園児を負ってしまった。	抱っこと違い怪我になるリスクが高いため、園児を負ぶわなしい、おぶい紐を使用して負ぶう際も2人で行うことがマニュアルで記載されている。	1.定期的 1回/週	1.定期的 1回/週	1.定期的 1回/週	1.定期的 1回/週	7.その他	担当保育士が、負んぶするという行為の危険性の認識が甘かった。	今後は、災害等で外んぶが、負しにくいように見直しを。	1.いつもおりの様子であった	夕方の時間も室内での遊びあてがなかった。	1.対象児とマンツマンの状態(対象児に接していた)	負んぶした際に片手で本児を支え、もう一人の園児の手を繋いでおろす際に背中から落ちる。(高さ50cmくらい)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内で、他の園児のバズル等を見守りながら、保育を行っていた。	夕方からの体制確認などは、朝事前から確認しておく。または、内線での確認方法を、安全を確保することとする。			
1885	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11月 2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	22									3	2	15.3歳	2.女児					1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	園庭・遊具の使い方の認識が甘かった。	園全体でマニュアルの見直し・再作成を行う。	1.定期的 1回/週	12	1.定期的 1回/週	12	12	12	1.個人活動中・見守りあり	一人ひとりを見守っていたが遊具ではないので、事故発生したため、遊び方・遊ばせ方を再確認した。	遊ばせ方・見直しをする。	1.いつもおりの様子であった	体調も良く、いつも通り生活していた。	1.対象児とマンツマンの状態(対象児に接していた)	コンクリート縁石で遊ぶ際は必ず保育士が行う約束をしていたため、その日おいていた。しかし、咄嗟のことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で多人数の児童を保育していたため、見守りが甘かった。	日頃から同じ様子を遊ばせていたが、様々な危険性の見極めが必要がある。	再度遊ばせを行う。個人気持ちは、発達していく必要がある。
1886	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	12月 2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									2	2	17.5歳	1.男児					1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘尺骨骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	ヒヤリハットへの取り組み強化を行い、会議の中で報告検証することを徹底する。個々の職員が事故に要する要因を認識し、迅速な対応をしていくことで、事故抑制力を高めるようにする。	戸外活動の際には、職員が保育活動内容に即した安全確認を行うことを徹底する。	1.定期的 4	1.定期的 1回/週	12	1.定期的 1回/週	毎日	1.集団活動中・見守りあり	・4歳児になると運動能力も高まり、鬼ごっこなどの遊びが混在する場合は、子ども同士で遊ぶ際に必要であったと思われる。歩いて衝突した男児Aに、自分から入っている時は、周りが見えていないことが多い。・当日は気温も低く寒い日であった。室内ではエアコンを使用しており、急激な温度変化に身体が十分対応できていない状況であったのではないか。	・寒い季節に運動遊びを行う際は、身体をしっかりと温める中、子どもと一緒に行う安全教養を実施していく。	1.いつもおりの様子であった	体調等に問題なかったが、体が動かさず、動きが止まっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	設定保育が終了し、自由保育中のため、鬼ごっこをする子どもと他の遊びをする子どもが混在していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日の設定保育は製作活動であった。一人の職員は保育室の片づけが終了後、園庭に戻り保育に予定で片付けを急いでいたため、見守りが甘かった。	本児は、柔軟性や俊敏性やや欠ける傾向があり、衝突の勢いが強いものであったが、倒れしやすさという点では、通常の子どもと変わらない。	個々の特性を把握し、準備体操を行ううえに、急な動作に慣れさせるような状態で行う。	





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因		事故発生時の要因分析																								
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳					1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	ソフト面	ハード面		環境面		人的面															
1890	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17								2	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12.基準配置	園庭での遊びのルール(自由遊び中は側転はなしなど)があいまいであった。	ルールを全職員でしっかりと確認する。	1.定期的に実施	12.不定期に実施	12.定期的に実施	12.定期的に実施	12.定期的に実施	園庭の芝生は冬寒時、1か月程生え11月6日より開放。	園庭が芝生でなければ、更に重大な怪我になった可能性がある。	1.集団活動中・見守り	ホールでの体操教室後、園庭で遊ぶ。	子ども達が落ち着きやすい日は、集団遊びを指定する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ヒーローになりきり、側転や他児に跳ねる真似をしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見つけた。	園庭用玩具を片付ける園庭についていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	受傷児は園庭にて何度か危険な行動をしていたので、必ず保護者が近く行動を抑制すべきであった。	担任はクラス全体を見つめて、危険な箇所には必ず入ることを徹底する。
1891	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	12.8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13							3	14.2歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	仲の良い友だちと帰りの時間が一緒になり気が高ぶった。	「気をつけてね」等の言葉をかける。	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	引き続き安全点検を実施していく。	7.その他	廊下を走らないこと、走って怪我をすることと、この事故をきっかけとして子ども達に教え、保護者にも注意をお願いしていく。	1.いつもおりの様子であった	保護者での迎えまでは普段と変わらず気ななな遊んでいました。	4.対象児の動きを見ていなかった	引き渡しの後でその状況を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	廊下で転倒して泣き声を聞いた。	保護者への引き渡し後であっても、園内で怪我をすることがないよう注意する。			
1892	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40	12	14	14				3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準配置	思いもよらない子どもの動きに対する、重ねて繰り返しの対応。	危険に対する、子どもたちの意図の啓発。	1.定期的に実施	12.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	適切な場所での活動では無かった。	3.個人活動中・見守り	活動的に遊びながら、体力的には配慮が必要であった。	危険な行動であることを埋め合わせるように、体力的に必要であった。	1.いつもおりの様子であった	園庭遊びで友達と遊んでいました。	2.対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	ままごとをしていた数名で側転を始めたので「危ないからやめよう」と声をかけ、一旦は落ちていた他児のやり取りを行っていた時、再び側転を始めたので止めようとしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	同じ室内にいたが、保護者対応や他児との関わりをしていた。ままごと状況は視界に入っていたが間に合わなかった。	友達同士での遊びの中で繰り返してしまっ、やり取りがあった。	一度止めた時点で次の必要対応があった。		
1893	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67	3	8	11	12	15	18	15	14	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置	事故や怪我の発生後は7/21ハットの記録や送迎している、児童に対して遊具の扱いについての再確認。	通常、プランコは園庭が狭く、朝夕時間帯によって取り外していることもあり、再度児童や職員に遊び方の周知を行う。	1.定期的に実施	2.定期的に実施	12.定期的に実施	12.定期的に実施	安全点検は定期的に行っている。ハード面以外での改善を行う。	7.その他	送迎の時間帯は、子どもは高ぶりが思えない事故が起りやすいので、保育士や保護者に対して見守りを行うよう注意喚起を促す。	1.いつもおりの様子であった	とても活発な女児で、普通に何気なくつまづいて自分の体重をかけて回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見つけた。	登園時で、保育士や保護者が対応していた。もうひとりの担任は、園庭にいた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	登園時は、複数園児の園庭に、来園児クラスの園児にも配ったり、保護者との関わりがあった。	自分の担当クラスの園児だけではなく、園児が危険を伴う行動や遊びをして、声掛けや配慮が必要である。				

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日														
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故に状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																		
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析 特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析 特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析 特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析 特記事項	改善策										
1894	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	6.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	1	16.4歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	遊具の危険性を再認識する必要があった	遊具の危険性を子どもたちに伝えるのに、怪我を今一度行う	1.定期的実施	2.定期的実施	1.定期的実施	12	鉄棒の使用の際には、下に引くマッション性の高い物にする	1.集団活動中・見守りあり	補助が必要な遊具を少なくし保育士が即時対応できるように設定を行う	1.いつもの様子であった	運動神経の良い児で鉄棒にぶら下がることがよく出てきた。事故も自らが鉄棒にぶら下がって遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒で遊んでいる子どもを他児の様子を見ていた。		遊具で遊んでいる際に、保育士の目を多くとることが必要だった。						
1895	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	4歳	4歳	4歳	3歳	2歳	2歳			2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨骨折、右ショウコソコ鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1.基準配置	年齢に問わずまだ未熟なところがあるので職員も意識して関わる。	事故の起きる時間帯や曜日なども意識して保育に当たる	1.定期的実施	12	2.不定期実施	4-5	1.定期的実施	4-5	お部屋の整理、椅子はテーブルにしまう。	園児へ慌てないことをお話しする。	1.集団活動中・見守りあり	戸外への促しは少人数ずつ行う。	椅子やテーブルのかたづけをききこんで行う。	1.いつもの様子であった	健康に問題なく登った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見ていたが防くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の担任は先に園児を連れ出した。	日頃より、職員間の連携を密にしてゆく。	
1896	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	6.2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	8	4歳	4歳							2	16.4歳	2.女児	4歳児の標準的な体格、身軽に動き運動神経もとても良い。チャレンジ精神旺盛だが、自分の能力も把握できていない。事故当時の天候は曇。遊具の点検は1週間前に行っていて異常なし。	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨外骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	3	2.基準配置	固定遊具を設置して1年未満、職員ミーティング等で危険個所の検討はしていたが、マニュアルには園外での固定遊具使用時と同等としている。	今後のマニュアル改定時に、園内の固定遊具に関する項目を設け、今回の事故に関する予防策も記すようにする。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	2.不定期実施	12	ゴムチップの床は弾力性があり、落下しても大きな怪我がないようになっているが、逆に落下しても安心感が強すぎた可能性がある。	設備面では出来得る限り対策は行っていたと考えられている。危険回避のために定期的な点検は定期的に行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	毎日、園児の少ない時間帯に遊具で遊ぶようになり、1ヶ月が経過、園児も職員も見守ることに慣れてきた頃であった。	挑戦したい気持ちで遊具を大切にするとともに、改めて遊具の使い方を伝えている。	1.いつもの様子であった	体調も良く、動きも変わらず。元々、身軽に動く子で、運動神経もとても良い。チャレンジ精神旺盛だが、自分の能力も把握できていない。園庭は代表取締役との打ち合わせのため1分以内の系列施設へ行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	この日は担任が休みのため、フリーの保育士が担当。テラスに出るため主任が同行していた。(テラスで遊ぶときは原則戸外と同様、保育士2名以上がつくようにしていた。)保育士1名は遊具のうんてい部分に着場所(遊具外側)で待っていた。もう1名は、他の園児3名と一緒に、テラスの端にある遊具(遊具から1mほど離れている)の手入れをしていた。至近距離ではないが、対象児と担当者の位置は確認していた。	同じ棟で過ごす2・3歳児クラスで園外に出たため、目の前の保育室は無人になっていた。向かいの建物にいた0・1歳児クラスも昼食が始まっていた。外を気にしていた職員はいなかった。事務室には事務員がいたが、テラスの方を見てはいない。園長は代表取締役との打ち合わせのため1分以内の系列施設へ行った。	毎日朝夕、固定遊具を使いながら遊んでいる。1ヶ月が経過、慣れたところでの事故であった。保育者も慣れがつかない。	少人数で対応が十分である。慣れ等があることで、子どもたちの油断を職員間で確認し、油断がつかないようにする。

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日									
	初回掲載年月日	認可・認可外施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面												
					人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニユアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策					
						0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																												5歳以上	学童	その他		
1897	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	11 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	50	18	19	13	3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指) 左足中足骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 実施	1.基準以上配置					3	特になし	1.集団活動中・見守りあり	運動能力の未熟さもあって考えられる	3.いつもより活発であった(理由を記載)	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児と事故前にボール遊びを一緒に行う。他児が鉄棒遊びをするという見守りのためにボール遊びをやめて鉄棒遊びの子どもの体を支えていたとき、背後で発生する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	4歳クラスの保育士で対象児が転倒する。		常に子どもが見える位置に立ち、全体が把握できるようにする。						
1898	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	9 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等) 7.異年齢構成	9		5	4	1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 実施	1.基準以上配置	保護者からの提案により、保護者からの目録で意見を頂けるよう、ヒヤリハット・ご意見記入用紙を作成し、玄関に設置した。					12	平均台の置き場所	環境を見直し、平均台を置く場所を確保した。	1.集団活動中・見守りあり	園庭遊びを終了し部屋に入る際は一人入室し、分かれて活動することはないことを全職員に徹底、周知した。	1.いつも通りの様子であった	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	職員は本児の姿が対峙している様子を目撃していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片付けを終わらせて保育室に入った子どもたちを保育していた。		子どもが安全に過ごせる様に園庭利用時間帯を見直し、表を作成。片付けや部屋に入る時間を明確にし全職員に周知した。				
1899	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	9 7.午後	1.施設敷地内(室内) 6.5歳以上児クラス	45				4	4	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む) 眼底骨骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期 実施	1.基準以上配置	日常と異なる活動時の配慮	職員全員が具体的な事例を話し改善を図る					1.定期的 実施	1.定期的 実施	1.定期的 実施	保育室の広さと布団の枚数の割合	午睡用布団を複数場所を確保	園児の行動する動線に問題がないか	園児同士がぶつからないよう距離が保てる動線の確保	1.いつも通りの様子であった	各々が、自分の行動を優先して周りを気にしていない	4.対象児の動きを見ていなかった	園児が畳んだ午睡用布団の収納をしていた園児の行動で動くと出てきた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつ準備、他の園児の援助をしたため、気がつかない。		子どもの動きを予測して危険を回避できるように、事故事例等を参考に検討しておく
1900	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	11 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内) 7.異年齢構成	10	4	6		2	2	15.3歳	1.男児	無	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指) 右足親指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期 実施	1.基準以上配置	ヒヤリハットは出来ていないが、それが以外に起こる事象に繋がった。	ヒヤリハットを活用し、普段平気で思わぬ事故に繋がると、色々な事例をケース会議等でも話し合っていた。怪我がなかった。					1.定期的 実施	1.定期的 実施	2.不定期 実施	3.対象児が離れたところで対象児を見た	2歳児で使う部屋を、ロッカーが一方の部屋を使うようにする。おもちゃの出し方を工夫する。	担当保育士が、子ども達を見守る位置が悪く、見守りが十分でなかった。	保育者がいつか起こりうる事を再確認し見守りを徹底する。	1.いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見た	全体の様子を把握していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玩具で遊んでいる他の児と一緒に遊んでいる様子を見ていた。	いつもは、何でもないが、何か起こると、安心している部分に、怪我があった。	いつもは、何でもないが、何か起こると、安心している部分に、怪我があった。職員に十分配慮する必要がある。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	年齢	性別	特記事項	事故状況				ソフト面		ハード面				環境面		人的面																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳					診断名					事故時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	事故原因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていったか	他の職員の動き 具体的に何をしていったか	その他要因・分析・特記事項	改善策					
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
1901	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	39						4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3-4	2.基準配置	危険防止マニュアルはあるが、事故後処置の方法が中心となり、予防面がおろそかになっていた。	マニュアルを事故でも充実させ、職員との共通理解を図る。	1.定期的 約50	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施			公園の点検を行っていなかった。	遊ぶ前には公園の点検も行い、安全を確認してから遊び始めることとする。	1.集団 活動中・見守り	東屋の周りを走りながら、友達と投げっこに夢中になっていた。	1.いっぽもどおの様子であった	年中組主任は対象児が友達とそこを走っているのを見ていたが、他児の振り向きに手を当り、保育士は、年長組の保育士に代わって隣に寄りかかっていた。	2.担当 者・対象児の動きを見ていなかった	休みだった年長組の主任が入った保育士は、年長組の保育士に代わって隣に寄りかかっていた。主任は、園児の動きを見ていなかった。	隣の公園であっても、その場で怪我の処置ができるよう確保して、位置取りに注意し、死傷の無いよう十分注意し、職員同士の間にも、園児への目配りを怠らないう指導する。			
1902	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	82	24	32	26	9	7	17.5歳	2.女児		特になし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	誕生会の後、3・4・5歳児混会の縦割りチームになり、遊戯室で会食することになった。縦割りチームでの活動は以前から行っており、ほとんどの子がメンバーを覚えていたので、保育士の各園でメンバーを探して、揃ったチームから決められた場所に集まるというゲームを数回行った。	異年齢交流の場合、様々な状況を想定し、安全面に配慮するとともに、保育中の留意点や職員配置を十分に話し合ってから実施する。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施			遊戯室は、他園より比較的大きい方が、3・4・5歳児8人一斉に動くこと、安全面が心配なため、遊戯室の広さを想定し、安全面に配慮して実施する。	遊戯室は、他園より比較的大きい方が、3・4・5歳児8人一斉に動くこと、安全面が心配なため、遊戯室の広さを想定し、安全面に配慮して実施する。	1.集団 活動中・見守り	誕生会後の縦割りチーム作りの際に他児に足を踏まれたが、足は痛くない様子で通り過ぎた。職員は、その様子を見て、注意深く見守った。	1.いっぽもどおの様子であった	縦割りチーム作りの際には、対象児の様子を見ていなかった。2.担当 者・対象児の動きを見ていなかった	82名が一斉に動く中で、自分の役割を果たすことには集中し、本児の動きを注意深く見守ることはなかった。	支援の必要な子が、同チームの動きに注意し、担当保育士だけでなく、そこに居る保育者全員が、子どもを注視する。					
1903	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.1.朝(始業前-午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	41				2	2	17.5歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	園庭は広いので、安全確認が必要、雲梯や鉄棒遊具は特に注意したが、注意事項について認識不足があった。	それぞれ遊具や広場に職員を配置して、安全に遊べるよう声をかけ、見守る。	1.定期的 に実施	280	280	280			雲梯で遊ぶ注意点を朝霧で滑りやすかった。	危険がないか、目視する。お互いに声を掛け合う。	1.集団 活動中・見守り	今までの雲梯が、何段も落ちて、朝霧で滑りやすかった。	1.いっぽもどおの様子であった	雲梯が出来るようになり、お家の方に保育士が来るようになった。お家の方に保育士が来るようになった。お家の方に保育士が来るようになった。	2.対象 児まで対象児を見ていた	雲梯をすくは、一人の保育士が、お家の方に保育士が来るようになった。お家の方に保育士が来るようになった。	他の場所でも子ども達を見ていた。園長も事故発生時に子どもが何段も落ちて、お家の方に保育士が来るようになった。お家の方に保育士が来るようになった。	保育士も子ども達から安心して見守る。	スタートする時点から、一人ひとり見守る。	





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・児童支援員等	事故状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因				ソフト面		ハード面		環境面		人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由		担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策													
1900	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	3.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	68	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折、左尺骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	18	2.基準配置	その他要因・分析・特記事項 違う遊びが入り混じらないように園庭におけるそれぞれの遊びの範囲を指示する。サッカーなど動きの大きい遊びは時間を分ける。	改善策	1.定期的実施	24	1.定期的実施	25	1.定期的実施	24	今回の事故は、ハード面が主たる原因ではないと考える。	ソフト面の改善だが、ハード面の改善は特に必要ないと考えられる。	環境面	1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	1.いっもの様子であった	担当職員の動き 具体的に何をしていたか 4.対象児の動きを見ていなかった	他の職員の動き 具体的に何をしていたか 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他要因・分析・特記事項	改善策	異年齢交流で園庭に多人数の園児が出て複数の子の遊びを指導ではな安全な安全を見守り確認する係の職員を配置する。
1906	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	5歳	7歳	10歳						8	8	14.2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿骨(脛骨)骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期実施	1.基準以上配置	2.基準配置	保育士の配置数が満たされていないと、お互いに仲間を頼り誰かが見ていると意識が希薄化しやすいため、危機意識をもって保育する。	改善策	1.定期的実施	12	1.定期的実施	49	1.定期的実施	鉄棒に安全カバーが装着されていた場合は、接触時の衝撃が和らげられ、負傷の程度が軽減されることがあり。	環境面	1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	1.いっもの様子であった	担当職員の動き 具体的に何をしていたか 3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の職員の動き 具体的に何をしていたか 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他要因・分析・特記事項	改善策	ひとりの子どもの庭内を走り出した時、安全面よりも気分の発散を重視し止めなかった。設置した遊具や友達と遊ぶこと、走り、走って走り出す場所を確保する。また、保育士間で声を掛け合い、子どもの突発的な行動にも迅速に対応できるように、保育士の配置を工夫する。		
1910	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16									4	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	外果骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	2.基準配置	事故ヒヤリハット報告書及び応急処置記録表などの事故内容について、これまでに職員間で話し合いの場を持ち安全対策について確認し合う。また、記録による子に対する対し特に気を配る。	改善策	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	毎月安全点検を行っているが、異常を確認したときは随時報告し安全対策を講じる。日頃から環境整備を行い危険と思われる箇所は迅速に対策を講じ、子ども達の年齢や発達を踏まえ保育環境を整備し安全に遊べるようにする。	環境面	1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	1.いっもの様子であった	担当職員の動き 具体的に何をしていたか 2.対象児の動きを見ていた	他の職員の動き 具体的に何をしていたか 1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その他要因・分析・特記事項	改善策	様々な活動の中であわてさせないようにする。クラス担当者だけでなく職員全体で対象児を見守るようにし、些細な事でも職員間で連絡し合い情報を共有を図っていく。県・市の研修会や職員会議などの機会に子ども達の発達と事故との関係や事故の生じやすい場所などについて学び、事故の認識、危険に対する予知能力の向上を図っていく。	







No	概要		発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外 施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面	人的面																		
					人数	異年齢構成の場合の内訳											死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】		遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項		改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策						
1918	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	11 1.朝(始業-午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	5									1	1 17.5歳	1 男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部分の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置 3	約束の再確認。	園全体で約束の再確認を行い、クラスでも徹底できるようにする。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	跳ばないように目印をつける。	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びであるが、一人の活躍を、一人の活躍を、共に見守ること。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児への対応で大構をまわっていた。発生後かけつける。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他児と関わっていたため、至近距離にはいなかった。		大勢の園児が園庭で遊んでいるが、保育士がたよらず、全体に配置できるように配慮する。
1919	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36									3	3 18.6歳	2 女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・手指)	左足膝下の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的 に実施	1.基準以上配置 12	事故事例より円周コーナーに職員が立ち、事故予防する。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	随時	園庭に水を巻き、よく走り、円周コーナーで転倒しやすくなるように整備する。	1.集団活動中・見守りあり	対象児がよく走り、円周コーナーで転倒しやすくなるように整備する。	1.いつもどおりの様子であった	練習に熱が入り、円周コーナーで転倒しやすくなるように整備する。	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	走っていた対象児を把握していたが、転倒した際に傍に行き対応する。	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	4.5歳児の練習を応援していた	対象児がよく走り、円周コーナーの走り方を安全な転び方を指導する。	運動会の練習に熱が入るが、無理をせず、円周コーナーの走り方や安全な転び方を指導する。
1920	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	10.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2 17.5歳	1 男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折 左肘関節内血腫	5.他児から危言をされたもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置 2	集団から離れていた児童への対応で、並んで待つ子ども達をばに保育士は気づいていなかった。	・子どもの把握の徹底。子どもたちに対しては「危険行為」「約束」等について、話をし確認する。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	特になし	1.集団活動中・見守りあり	集団から離れている児童への対応で、担任外の保育士でも個々の児童の様子を把握しておく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	居場所を把握していたが、子どもたちを声で確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	加配児に対応。	担任が午後休暇のため、別対応していた。	集団活動中後休みのため、見守りできるようにする。				
1921	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	11.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2 17.5歳	1 男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置 2	次の活動に向け、声掛けで順次ホールに向かっていった時であったが、把握が十分でなかった。	子どもの把握の徹底。職員が声を出し合っており、把握が十分であった。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	職員配置の確認、職員間の連携を図る。遊具等の確認を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	次の活動に向け、声掛けで順次ホールに向かっていった時であったが、把握が十分でなかった。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見なかった	次の活動へ移動する際に、対象児の動きを確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	全体把握をしながら、保育士であった。	子どもの把握の徹底。職員が声を出し合っており、把握の確認をしよう。					
1922	平成30年3月30日	1.認可 6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	2	11	4						5	5 13.1歳	2 女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・手指)	(1)右足部挫傷 (2)右第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置 12	異年齢での活動であったが、声掛け指導が不足している可能性がある。	職員配置と子どもの年齢に合わせた動線と遊び方を検討する。	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	250	1.定期的 に実施	250	園庭を芝生化しているが、転倒の仕方によっては、骨折等の怪我につながる可能性がある。	1.集団活動中・見守りあり	普段子供たちが楽しんでいる遊びであったが、今回は芝生を履いていない事を配慮して遊ぶ必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	狭い範囲ではあるが、元気に園庭で遊んでいた。	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	事故直前には職員2人が対象児を見ていた。事故の瞬間を見ていたのは担当職員1人だった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他の子どもを見ていて、対象児の動きを把握できなかった。	子供たちの遊び方と行動範囲を全体的に把握できるように情報を共有する。		



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面					ハード面					環境面		人的面															
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策		
1927	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭等)	7.異年齢構成	62							3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	4.基準配置	雲ていは、毎日行い年長児は渡る事ができていた。しかし、いるいるな技に挑戦しようとしていたので、十分な把握が必要だった。	本児が挑戦しようとした時に保育士の援助が必要だった。		1.定期的実施	12	1.定期的実施	6	1.定期的実施	雲てい下の安全マットはH29.8月に新調した。	安全マットの上で落ちているものを、この改善策はならない。	1.集団活動中・見守りあり	雲ていは、毎日行い年長児は渡る事ができていた。しかし、いるいるな技に挑戦しようとした時に、十分な把握が必要だった。	1.集団活動中・見守りあり	雲ていは、毎日行い年長児は渡る事ができていた。しかし、いるいるな技に挑戦しようとした時に、十分な把握が必要だった。	1.いつもおもちゃの食量だった。	午前中は、運動音など、給食もいつもの食量だった。	4.対象児の動きを見なかった	休憩が終わり、園庭に出ようとした。	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	戸外に出ている年長児の担任1名と保育士2名で見守っていた。	雲ていの3段抜かしへの挑戦意欲が大きかった。それに見合った本児の力も考えられる。	子どもの挑戦意欲に對しての運動能力も高まると言え、日々の取り組みを日々取り入れていく。
1928	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	31							2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	2.基準配置	大まかな幼児の事故予測のみで、個別に起こる事故の予測がなかった。	事故にならないが、遊具使用中に手をすべらばたまたま、年齢と場所別で起こる事故予測をし、対応を検討する。		1.定期的実施	2	1.定期的実施	2	1.定期的実施	12	鉄棒の下に砂を敷きまくっていたが、十分ではなかった。	落下が考えられる遊具の下に、クッションになるものを敷く。	3.個人活動中・見守りあり	鉄棒が出来るようになり、手で棒をしっかりと握っていたこと、午後からの子どもの疲れ具合や注意力への意識が薄らいでいたことが考えられる。	個々の能力と体力を再確認し、午後からの保育計画が再考する。	3.いつよりも活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒が出来るようになり、繰り返してみようとし、慎重さがなかった。	2.対象児の至近で対象児を見つけた	他事の動きも同時に見ていたため、本児の落下場面は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	各担当する子どもをみていたので、本児の動きは把握していた。	本児が手着地の姿勢が十分でない状態を取り組んでいたので、全職員が把握していた。他の職員も気が付いて、会話をしながら伝達する。	子どもの姿に、会話をしながら伝達する。
1929	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	10.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32							2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘関節内骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	2.基準配置	特になし		1.定期的実施	1.定期的実施	1	1.定期的実施	2	1.定期的実施	特になし	雨上がりのため、ブランコが設置されていなかった。危険を認識せず、柵に登ってしまった。	遊んではいけない場所という事を、子どもと再度確認した。他保育士にもこの事を周知した。	3.いつよりも活発で活動的であった(理由を記載)	今週は雨の日が多かったため、遊べる場所が狭く、よりテンションが上がった。	3.対象児から離れたところで対象児を見つけた	鉄棒で遊んでいる子どもを見守っている時に、対象児が柵をかけた足で蹴っていたので危険なことを知らせようとして、駆け寄り行って間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	対象児とは別の子と離れた所で鬼ごっこをしていたため、対象児が転倒する所を見なかった。	対象児ばかりでなく、いつもよりテンションが高い子がいた。	遊ぶ前に子どもたちと遊び方を確認する。声掛けを行い、常に目を周知した。			
1930	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12							1	1	15.3歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1.基準配置	安全管理マニュアルやヒヤリ・ハットマップ図を読み返し、共通理解をする。		1.定期的実施	12	1.定期的実施	300	1.定期的実施	300	今後とも定期的に点検をする。	1.集団活動中・見守りあり	ウレタンブロックを2つ3つ並べて、安定した形から乗るようになる。	1.いつもおもちゃの食量だった。	ウレタンブロックをいくつも並べて、その上に乗って遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見つけた	友達とのトラブルもなく単独で遊んでおり、特に危険を感じたため、近くで見守っていた。	保育士のすぐ近くで遊んでいたが、険が潜んでいることを知らせなかった。	身体的に心で遊んでいない子にも、危険が潜んでいることを知らせる。					





No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																			
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析・特記事項	改善策											
1936	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	110	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	5	2	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数回	うんていでは、怪我があることを考え、保育士がそばについていく	うんていでは、保育士がそばについていく	1.定期的 毎日	毎日	1.定期的 毎日	3	1.定期的 毎日	早朝に必ず確認する	日々気づいた時点検する	1.集団活動中・見守りあり	戸外では、遊具でかくれう部分なども確認する	人数把握していく	1.いつもどおりの様子であった	体を動かすことが好きであった	4.対象児の動きを見なかった	他の園児が部屋に戻る時に、一人だけもううんていやり始めてしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋に戻ろうとしていた	保育士間で連携をはかる	予測して活動していく	
1937	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	5月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	107								5	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数回	うんていでは、怪我があることを考え、保育士がそばについていく	うんていでは、保育士がそばについていく	1.定期的 毎日	毎日	1.定期的 毎日	3	1.定期的 毎日	早朝に必ず確認する	日々気づいた時点検する	1.集団活動中・見守りあり	戸外では、遊具でかくれう部分なども確認する	人数把握していく	1.いつもどおりの様子であった	体を動かすことが好きであった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	砂場、園庭遊具にいた	保育士間で連携をはかる	予測して活動していく	
1938	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8月 1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12								3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		3	2.基準配置	人配置は十分であった。	1.定期的 毎日	12	1.定期的 毎日	4	2.不定期に実施	不定	安全確保の遊具についてははしにしない	1.集団活動中・見守りあり	室内中央に配置された手作り遊具の場所。	遊具の配置、出しに気をつける。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で興味を引く音楽が流れ、踊りがあわてた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	手洗いをした後に、急に音楽が流れて走り出した。室内中央の遊具を横断しようとした。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	室内には2名の子がいただけで他の子は廊下ですら見えていた。室内に2名の保育士・子どもだったが、1名はお片付け、1名が2名の子の近くにいた。走ったが遊具に踏く予感がなかった。	遊具を部屋中央に出しっぱなしにしない	
1939	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	44								4	4	15.3歳	2.女児	園庭南西に高さ30センチの小山有。	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1	2.基準配置	園庭でのおにごっこ等の集団あそびの適切な遊び場について追記。	1.定期的 毎日	12	1.定期的 毎日	12	1.定期的 毎日	12	危険箇所を再度確認。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の遊び方を園児と確認する。転んだ際受身を取り手をつけるよう普段より体験を積める	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		安全な場所であそびが展開できるよう保育士も立ち位置を工夫する			
1940	平成30年4月	1.認可	6.認可保育所	4月 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭)	7.異年齢構成	87								6	6	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1	2.基準配置	園内研修を実施し、保育士の危険回避の意識を高める。	1.定期的 毎日	10	1.定期的 毎日	10	1.定期的 毎日	10	園庭の遊具と遊びの	埋め込まれたタイヤにつまづいたので、園児から走るとは何か	1.集団活動中・見守りあり	保育士が各々遊びこんでいたため、園児の動きを確認できなかった	1.いつもどおりの様子であった	性格は真面目、5歳児としては幼い面が多、自分の思いを言葉にすることが得意	本児たちが鬼ごっこしていることは把握していたが一緒に遊んでおらず、他の園児とグループをして遊んでいたため、本児の転んだ瞬間を目撃できなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の4人の保育士も各々他の園児と遊んでいた	鬼ごっこなどの活発に動く遊びの	園庭の遊びをしっかりと	



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日								
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面										
						人数	異年齢構成の場合の内訳									死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無		事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策			
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳																												5歳以上	学童	その他
1944	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	10.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16							3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12.基準配置	研修には積極的に参加し、全職員の見守りを向上させる。	1.定期的に実施	24.定期的に実施	24.定期的に実施	24	点検日のみでなく、常に危険がないか意識する。	1.集団活動中・見守りあり	保育者同士が戻らなうとして、乳児クラスの子も遊びに来て、気が散った	1.いつもどおりの子であった	4.対象児の動きを見なかった	2.担当者・対象児の動きを見なかった	前半に移動していた子どもと後ろについていたため。	子どもと移動する際には人数を確保し、子ども1人1人の動きを確実に把握できる人数で見守りを行う等、安全確保を徹底する。	
1945	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	10.1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19							2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準配置 3	飛び箱やその他の運動器具を使う際の適切な補助の仕方を学ぶ。	2.不定期に実施	3.未実施	2.不定期に実施	体育館の場所によっては、保育士から死傷する場所があるので、死角にならないよう運動器具の配置に配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	夏休みのプール運動会の練習があり、体育館の場所によっては、準備運動も十分にできていない状態で、体もまだ暑かったり、汗をかいていたり、また、跳び箱などの補助の仕方も適切に行えない状態で、保育士の先生から指導を受ける。	1.いつもどおりの子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士が飛び箱の横についていたが、飛び箱の横に補助が来ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	もう一人保育士も、体育館の全体を守っていた。	毎日行っていたとしても飛び箱や平均台など危険を伴う運動器具を使っているという認識をもっと持って、職員の配置や補助の仕方等も検討し、園児たちにも事前に注意を促していく。準備運動は充分に行いたため、ほくしから活動に入る。	
1946	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22							3	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3.基準配置 3	マニュアルがあり研修を受け、事故防止を意図しているが、日常の危険や子どもの動きに対応しきれないことも考えられる。	1.定期的に実施	3.定期的に実施	4.定期的に実施	特になし	1.集団活動中・見守りあり	天気が悪く、室内での活動が中心だった。体を動かす活動が少なかった。	1.いつもどおりの子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	片付けをしている子どもも、対象児が片付け終わった後ジャンプするのを見た。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他児が片付けを手伝っていた。	支援が必要な児童を含む活動の中、一言に片付け活動に入ると、保育士は全てを見守っていたが、対象児の動きを見れず注意できなかった。	
1947	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	10.7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	30							1	1	17.5歳	2.女児	障がい児でB1の知的障がい診断を受けている	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の2本のうち外側の骨は完全に折れ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置 5	担任が抜ける時などは代わりが入るなど対策をたて、複数で保育を行う	1.定期的な実施	1.定期的な実施	1.定期的な実施	特になし	7.その他	保育士は準備がまだ足りなかったり、掃除の後片付けをしていない。	1.いつもどおりの子であった	4.対象児の動きを見なかった	降園準備中で対象児以外の手伝いをしたり、掃除の後片付けで対象児に背を向けてしまった。		降園準備のしかたや部屋の掃除の仕方、時間をずらしたりする。また、作業中も子どもから目を離さないようにする。		

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																		
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面		人的面																			
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
1948	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	7 1.朝(始業~午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	69								3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじの骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	20	2.基 礎配 置		子どもが部屋を出るまで見届けるよう保育士を配置する		1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24		特になし	1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策
1949	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11 1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	234	10	35	35	49	43	62		26	25	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	20	2.基 礎配 置	予測不能 想定を常 考し安全 を守る	危険箇所 への細心 注意と数 か所に分 かれて園 児を見守 り、監 視・検視		1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24		1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1950	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11 2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19								1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的 に実施	20	2.基 礎配 置	予測不能 想定を常 考し安全 を守る	危険にな るであ る場所 の見直し をし把握 する		1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24		1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1951	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	11 2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	29				10	10	9		2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不 定期 に実 施	4	2.基 礎配 置	事故予防 に関する 研修内容 見直し。 事例検討 の研修不 足。	事故予防 マニュアル 整備。研 修内容、 計画再 構築し 実施す る。		1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12		1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	
1952	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9 1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	25								5	5	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外(側)類骨折	8.その他	1.あり	2.不 定期 に実 施	数回	2.基 礎配 置	園独自の 具体的な 事故予防 マニュアル が無 かった。	事故予防 マニュアル の見直し ・研修 実施		1.定期的 に実施		1.定期的 に実施		1.定期的 に実施			1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	









No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日																
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制						教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの状況 年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面			ハード面			環境面		人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳										死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項		改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策										
1963	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20							1	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 2.定期的	12	片付けの時間に職員が1人体制であった。	基本的職員体制に不足はないが、片付けの際には他の職員が補助に入って安全に注意する。	1.定期的 2.定期的	12	1.定期的 2.定期的	12	1.定期的 2.定期的	12	1.定期的 2.定期的	12	保育室入口に段差がある	子どもたちの注意が散漫になるような活動の時は、より注意して声をかける。	1.集団活動中・見守りあり	活動と活動の間で、落ち着きなかった。	保育士は、子どもたちが活動の間は落ち着きがないことを理解し、子どもたちの状況に合わせて、無理のない保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	活動終了後の片づけを子どもが行った	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもが長机を片付けていた為、保育室入口の段差を踏むよう声をかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当時、他の職員は各担当クラスに保育しており、現場にはいなかった。	他の子どももいたため、本意に注意できなかった。	他の職員が一緒に入るように入る。
1964	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	9.7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	6	6					3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 2.定期的	2	今回の事故に関して特に問題はなかった。	改善点は特になし	1.定期的 2.定期的	52	1.定期的 2.定期的	52	1.定期的 2.定期的	52	今回の事故に関して特に問題はなかった。	改善点は特になし	7.その他	今回の事故に関して特に問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児がブロックで遊んでいて、他の子どもの着替えを行った為、本児がブロックを踏んで転び、本児は急にうずくまり、大きな声で泣いていた。	食後の部屋掃除を行っていた。トイレに排泄を行っていた。トイレの処置作業をしていた職員は状況を見ていなかった。	子どもの着替えをしながら遊んでいる様子を見通しをもち、その場の危険な行動をしっかりと行っていく。	「しなす」の保育士は、子どもの遊具を安全に遊ばせる見守りをする。この場では、子どもの危険な行動をしっかりと行っていく。					
1965	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	6.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	32		10	11	11			3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腰部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的 2.定期的	2	担任1名は運番のため、園で待機していた。	近隣の公園を選ぶようにした上で、より充実した体制で保育する。	1.定期的 2.定期的	1.定期的 2.定期的	1.定期的 2.定期的	1.定期的 2.定期的	1.定期的 2.定期的	対象外(園外)	1.集団活動中・見守りあり	異年齢では、4・5歳児は子ども同士で遊びこめると過信し、鬼ごっこをさせてしまった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこに夢中で前方をよく見ていなかった。	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	3歳児の対応を行っていた。全体を見渡していたが、本児の転倒を直に防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	1名本児の近くにいたが、転倒を防止できなかった。	職員の見守り位置	公園での危険箇所(死角等含め)・危険物・固定遊具の安全点検を行った上、異年齢構成である子どもを十分考慮し職員の役割分担を徹底する。鬼ごっこに職員を配置するなど具体的な指示を出し全園児の安全を確保しながら遊ばせる。					
1966	平成30年3月30日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	1	9					2	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	1.定期的 2.定期的	12	特になし	1.定期的 2.定期的	12	1.定期的 2.定期的	24	1.定期的 2.定期的	24	子どもの発達状況に合わせ、安全な空間の中でゆったりと遊ぶことができる環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	1-2歩あるけるように、マットの上でも立ち上りがバランスを崩した。	マットの横で見守りしていたが、本児の落下を差し止めたが間に合わなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室の他の場所で見守りをしてため。	室内で、遊具を使った運動遊びの活動をするときは、担任がそばに立っている時間帯に行うようにする。								

























No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故発生時の要因分析										掲載更新年月日															
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故にあった子どもの状況 年齢 性別 特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故原因	ソフト面					ハード面					環境面			人的面											
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳				1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】		職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていったか	他の職員の動き 具体的に何をしていったか	その他要因・分析・特記事項
2009	平成30年3月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	17.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	32								3	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	はく離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	事故予防に関する研修の実施	2.不定期に実施	2.3.未実施	2.不定期に実施	1	学校との連携	1.集団活動中・見守りあり	遊びの中で注意喚起	1.いつもの様子であった	10名弱の児童がタイヤ山やグラウンドで遊んでおり、対象児が滑った場面は見なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童のトラブルに対応していたため、対象児が滑った場面は見なかった	児童への声かけ及び職員の連携		
2010	平成30年3月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	80								6	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	事故予防及び発生時の対処方法	2.基準配置	遊具を使用している子どもには特に気を配るという事を支援員間で意識づける。						1.集団活動中・見守りあり	校庭遊びの方で遊んでいる為、声掛け等の見守りで事故防止に努める。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	転倒の瞬間は見えない。室内に戻ってきた対象児の申し出で当該箇所を確認。運布を貼る。腫れの少なさと歩行可能な事から他の職員へ報告は行っていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭では対象児の見守り、室内に戻ってからは他児童の昼食に向けた準備を行っていた。	情報共有、危機管理の徹底。
2011	平成30年3月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	58								10	9	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	状況に応じて、適切に職員間で判断し、遊びの時間を調節すること。	2.基準配置	曇りの日でもより暗くなるのが早かった。	足元がしっかりと把握しているか把握する。その都度チェックし、判断する。	1.集団活動中・見守りあり	駆けつけ位置にはいたが転倒を防止できなかった。	慣れない遊びをする際、補助位置で見守る。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	健康面・身体面は普段と変わらないが、普段しない遊び(サッカー)をした。仲良しがサッカーをしていたため、一緒に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで見守っていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児童ではないが、本児に何かあった際には駆けつけるとの位置にいた。全体把握のため、周囲を見渡せる位置にいた。	普段してない遊び(サッカー)をした。ルビはあまらぬ。	慣れない遊びをする際は、段階を踏ませるようにする。		
2012	平成30年3月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	55								5	2	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2						3	3	3	室内にある危険について職員、児童ともに再確認する。注意喚起をする。	事故をもとに職員が配慮すべきこと、見守りに必要な視点を検討し、共有する。それに基づいて保育を行う。職員間の意識を高める。	遊びが好きなのでいつも通り遊びをしていた。	他の子どもたちに対応していたため、対象児を見られなかった。	室内の子どもたちに対応していたので対象児を見られなかった。				









No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面													
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか
2025	平成30年3月30日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	6.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	37	2	10	12	6	7			9	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	1.意識不明	1.頭部	脳震盪	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	次回以降の運動会の種目から、騎馬戦を排除することになった。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施		特に考えていません。	1.集団活動中・見守りあり	特に考えていません。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	運動会の日だったのでいつもより活発に動いていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		通常の保育とは違って園児の気持ちが昂りやすいので確認をする。		
2026	平成30年3月30日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	8.2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	6								1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第一楔状骨骨折 右足第一中足骨骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	特になし	柔軟性・筋力などを更に作っていく遊びを保育に取り入れる	3.未実施	3.未実施	3.未実施	特になし安全に設置されていると思います	特になし安全に設置されていると思います	1.集団活動中・見守りあり	特になし	柔軟性・筋力などを更に作っていく遊びを保育に取り入れたい体をつくる	1.いつもどおりの様子であった	本人が昨年秋にジャンプを試みた事があり、飛び降りる自信があった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	年長6人が2カ所に分かれて遊具で遊んでいたのを見渡せていた		子どもの動きを更に想定・把握するよう気をくばる